

会行事金台院 大僧都 円 瑞

十月七日 第二百四十九世天台座主大僧正渋谷慈鎧猊下は今日午前八時三十分御遷化された。

宗制第九条及び第十条の規定に基づき探題大僧正大森亮順猊下が天台宗管長代務者に就職された。

探題大僧正中山玄秀 在山十二年

福井県福井市和田東町 大橋忠太夫 三男

師主 延暦寺一山明德院 中山玄親

昭和二十二年十月十日 任天台座主

十月十日 この日新規則施行に伴い宗法第十五条第一項の規定に基づき前任探題総本山延暦寺住職大僧正中山玄秀猊下が第二百五十天天台座主に就職され、今十月十日午前十時から滋賀院内仏殿に於いて天台宗本庁役職員、延暦寺役職員、一山寺院住職等随喜の中に上任式を挙

行された。

同日 第九回臨時宗会に於いて多年の懸案であつた宗務機関一元化の天台宗規則（宗法、宗制）が議決され、九月卅日布達され、十月十日から総本山延暦寺を主体とする宗務の運営が行われる事に成つた。新宗法、宗制の施行に因り、天台宗宗務本庁を天台宗本庁と改称し、その職制改正に伴い、臨時に執行長、執行の役職が設けられた。

十一月二日 渋谷猯下が御遷化されてから四七日相当のこの日、延暦寺本坊内仏殿に於いて厳かに御本葬の盛儀が執行された。霜錦愈々酣ならんとする祖山は愁色殊更に深く「山門不幸」の門表は遊山参詣の諸人にさえ一入哀愁を誘わしめた。

会葬者は、園城寺長吏、東西本願寺、西教寺等各本山代表を始め、宗内各門跡、教区長、精査員、宗会議員等の宗内各種代表関係、学校関係者、仏連代表者、学会代表者其の他宗内公職員、各種団体代表、新聞社、特別信徒及び一般信徒等であり、式場に満ち溢れた。午前十時から中山座主猯下が御導師、精査員、宗会議員が式衆となって光明供

を修し、午後一時から座主猥下御導師、延暦寺一山大衆によって庭儀式がしめやかに執行された。弔辞は各本山代表園城寺長吏福家守明その他であった。

十一月廿二日 故渋谷猥下御遷化尽七日相当の日に当り午後二時から、中山座主猥下大導師の下一山大衆によって金曼供法要が厳修され引続き慈眼堂歴代墓所で埋葬の儀が行われた。

十二月一日 荒真了は東京上野輪王寺門跡に任命された。

十二月十八日 中山座主猥下は聖徳太子本廟に御参詣され、天台の法灯相承を御報告されると共に躬を以って全国を行脚する事を誓われた。昭和二十三年^子二月廿四日 第一回宗会開会式の挙行に際して、座主猥下は親しく御臨場の上諭示を宣せられた。

諭 示

我れ第一回宗会開会式に臨み同法諸員に告ぐ。爰に本庁は緊急の件々を提示したり。夫れ宗是の恢弘を謀る一に係りて全員緇流の雙肩に在り、宜しく大師開創の本義に基づき宗門の将来に洞視し卑近を

斥けて高遠に慮り審議克く協賛の任を全うせんことを。

昭和二十三年二月廿四日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

二月廿八日 千百有余年不滅の法灯輝く比叡山延暦寺天台座主第二百五十世の伝灯を相承された中山玄秀座主猊下の伝灯相承式はこの佳日をトし古典儀も床しく比叡山麓讚仏堂で挙行された。

この日猊下には滋賀院本坊正面より先弘行事引頭伶人式衆(八口)布衣護持僧

御相承譜(執行)弟子猊下弟子布衣朱傘持執行長延暦寺天台宗本庁役員内司法類近親等

の行列を整えて讚仏堂へ入堂し、宗祖大師の御像前に進み敬白の誦誦に始まり「八舌の鍵」及び歴代座主護持の「一字金輪塔相承譜」とそ

の秘法器具並びに大乘戒伝授に必要な「舍利塔」を伝承され次いで猊

下から宗徒に対し教諭が発せられ、引き続き三崎執行長、山田延暦寺

執行、木下宗会議長の賀詞奉呈、三崎執行長の挨拶があつて相承の典

儀は全く終了した。主な来賓者は次の通りであつた。

東西本願寺執行長、園城寺長吏、三宝院門跡、実相院門跡、智恩院執

事長、西教寺総務等の各宗派門跡代表等、滋賀県知事代理地方事務所長、大津、堅田両警察署長、大津駅長、各交通会社代表、村内各団体、宗会議員、精査院議員、教区長、特別信徒、一般信徒、内司関係、縁故者等、内外約五百余名。

天台座主伝灯相承式次第

第一番鐘 式衆集会所参集 午前十時

第二番鐘 式衆装束 午前十時半

第三番鐘 猊下御入場(奏樂 越天樂) 先会行事、次伶人、次引頭、次

式衆、次御相承譜、次猊下、次宗務本庁 延曆寺役員、次、法類 近親者等

次猊下御登壇 奏樂(嘉祥樂)

次唄 匿

次散華 奏樂(迦陵頻)

次敬白

次御相承御儀式 奏樂(賀殿)

次御法樂

先開経偈

次説経（神力品）

次六種回向

次猊下御降壇

奏楽（胡飲酒）

次猊下教諭

次賀辞捧呈 執行長、延暦寺執行、宗会議長、総本山檀信徒代表

次執行長挨拶

次猊下御退場

奏楽（陵王）

次参列者退場

教諭

宗祖大師叡岳に登りて、一乗止観院を創建し、延暦聖皇の勅を奉じて大唐に入り法華の正統を求めて還る。帰朝の後盛に円密禅戒の教法を弘め、顕密二教鳥翼車輪に比し以って济世利人の大旨を定め玉ふ。爾来隆替あり法に消長無きに非ずと雖も列祖克く宗祖立教の本旨を継承して宗基を恢弘し玉ひ今日に至る。宗徒各員深く此に鑑る

所あり。宗祖の遺訓に遵い列祖の軌範にならない各自ら戒行を嚴にし精進を怠らず末法を正法に復し鎮護の宗是を永遠に墜すなからんことを以って己が任と為すべし。これ深く宗徒に望む所なり。

一乗沙門玄秀茲に宗法に則り天台座主の職に就き伝灯を相承し奉る。惟ふに老納夙に宗祖鴛瓶の法水を汲み解行に専念すと雖も尚未だ欠くる処多し。ただ仏天の冥感宗祖の照覽を仰ぎ、且つは宗徒の協助を以って此の大任を全ふせんことを期す。

願くば我が同法、深く世情を達觀して慈悲利物の実を挙げ以って宗祖に答へ奉ると共に又己が本分を尽さんことを。

昭和二十三年二月廿八日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

三月十九日 川原田円匡は毘沙門堂門跡に任命された。

三月廿五日 比叡山にて修行院が初めて開始された。

目的

本宗の教師である者の内、學歷、年令を問はず、希望に応じて、祖山延暦寺の山上諸堂舎に於いて、宗祖学生式の精神に則り行門の実習を為さしめる。

内容

院長、指導員、教授及び職員には夫々の權威者が之に当り、一宗最上の実践学校となし、修行期間は三ヶ月乃至六ヶ月とする。

特典

修行中は食費一切及び行院費等は徴収せず、すべて無料となし、その成績によって修行後教師一級を昇補される。

三月廿八日 滋賀教区に於いては予定の御親教の第一期として取敢えず左記の日程で親修された。

記

三月十八日 滋賀部 来迎寺

三月廿四日 甲賀南部 嶺南寺

三月廿七日 坂浅部 成菩提院

三月廿八日 蒲生北部 東南寺

猊下には御高齢にも不拘至極御元気で教学部長、駒田滋賀教区長、延曆寺幹事、浜中、橋野布教師等を従えられ、座主旗を先頭に定刻会場に御到着、各部内諸寺院住職、徒弟等の挨拶を受けられ、御休憩の違もなく御親修法要、諭示に次いで親授円頓戒或は剃度式等夫々所定の如く執行され、万般魔事無く進行した。各会場は予定の人数を遙かに超える受戒希望者があって係員を狼狽させる盛況で、其の数実に延べ千五百人に達して幾多堂外に溢れ、浄心の発露する所只管稀有の勝縁を喜び、聞法に受戒に剃度に極めて静粛且つ厳粛に一日を浄業に終始した。

三月卅一日 中山玄秀大僧正猊下は古儀に則って山上諸堂に参詣され座主就任の御報告をなされた。

四月^{自四}_{至十一}日 本年度恒例御修法大法は総本山延曆寺根本中堂に於いて座主猊下始め各門跡、地方選抜代表、山内寺院等参勤の上普賢延命大法を厳修し、玉体安穩宝祚長久並に鎮護国家世界平和を祈り奉った。

自四月十五日
至五月卅一日 比叡山文化展覧会が開催された。

四月自十七日
至十八日 東海教区岐阜県可児郡御嵩町願興寺に於いて、万靈供

養会並剃度式及褒賞状親授が執行された。猊下は十六日延暦寺一山僧
正渡辺恵章、本庁大森布教課長、随行布教師滝本慈選、出迎えの傍島
東海教区長及び宗会議員森下全哲等の諸師を従えられ会場寺へ御到着、
春雨煙る十七日は午前十時から国宝靈仏廿四躰安置の宝前に於いて怨
親平等万靈供養会を厳修され、尚晴れやらぬ午後二時から戒弟子百余
名に対し猊下親しく御剃度を執り行われた。十八日は晴天に恵まれ十
二年一会の本尊靈仏開扉中日の勝縁に結ばれ様と近郷から参詣した善
男善女の人の波でさすがの広い境内も埋れた。午前八時、願興寺独特
の稚児念仏組の練込があつて、猊下からそれぞれの組に対し褒賞状を
下附された。

四月廿八日 予て本宗教義に特別の信仰と関心を持っていたペッツォ
ルト、プリンクラー両師に対し今回僧階を贈与することとなり、その
伝達式が本日午後二時から東京浅草寺に於いて三崎執行長、浜名総務

部長出席のもとに左記の通り執行された。

先唄 散華 啓白文

次開会辞 坂戸智海師

次階位贈呈 主職代理 福田大僧正

次祝辞 大村正大学長

次同 花山文学博士

次挨拶 三崎執行長

次閉会辞 浦井出張所長

尚一般参列者として各宗会議員、教区長、学校関係者、浅草寺大森執事長、壬生浅草寺教学部長、塩入亮忠師、赤沼東京出張所主事等が随喜した。

五月廿五日 今年は皇慶阿闍梨の九百回忌に相当するので、本山及び阿闍梨の旧跡である丹波池上院に於いて報恩行事が次の通り厳粛に執行された。即ち五月廿五日丹波池上院に於いては、本庁から三崎執行長以下各部長、延暦寺から執行以下各幹事各灌室当役、院内役者等一

行約二十名が参列して光明供を奉修した。此の日全檀徒が随喜して台密中興の祖師の遺跡たる菩提寺に対する認識を新たにした。

六月四日 例年の通り長講会が比叡山上浄土院に於いて嚴修された。

六月廿六日 延暦寺に於いて、前記皇慶阿闍梨報恩行事各関係者が参列、池上院穴穂住職以下檀徒総代も遠路参詣して、曼供法要を嚴修した。終つて阿闍梨に関する講演会を開催した。

六月廿八日 本夕北陸地方を襲つた地震は近来稀なる猛威を振り殊に福井地方に於ける災害の甚大さは、実に言語に絶するものがあるので、天台座主猊下は直に教務課長大橋良仁及び延暦寺幹事小森文諦を慰問使として特派し、福井県庁、市役所並びに本宗関係寺院に災害見舞として金一封を贈り慰問に当らせると共に、被害の実状を視察させられた。

本宗寺院の災害は左の通りである。

光照寺(福井市) 倒壊

西嚴寺 同 同

自性院 同 同

不動寺 同 本堂大破

善林寺 (徳光村)

交通遮断の為不明なるも情報の聞込に依れば倒壊の由

西得寺 (丸岡町)、高岳寺 (長畝村)、西照寺 (高棕村) 右三個寺は九頭龍川の橋、鉄橋、電信電話等交通通信共に不通の為詳細は判明しないが入手した情報に依れば三個寺とも倒壊の由である。尚、西得寺は焼失した様である。

西蓮寺 (上文殊村) 門倒壊

宗徒一般からも応分の義捐金を募集し以って慰問の資と為した。因に総本山延暦寺は金壹万円也を災害見舞として贈った。

六月卅日 本山に古典法儀並びに音用の保存及び時代即応の新法式と其の音楽化とを研究し制定する為に、音律研究所が設置され本宗斯道の先輩多紀道忍を顧問とし、声明大成の共編者である吉田恒三、邦楽の泰斗である京大教授大築邦雄、斯道の新進学者である片岡義道を囑託し、本山からは福吉円鈔、中山玄雄の両名之を担当して、関係者一

同熱心に之が研究に当る事と成った。

七月十五日 本山と末寺とを直結する一事業として叡山講が左記の要領で結成された。

要 領

- 一、各寺もれなく即時叡山講支部を結成の上、講元、世話方の選定並びに講員名簿の作製と提出等至急手配相成度い。且つ各教区に於いてもそれぞれ教区本部を至急に設置せらるる様相願度い。
- 一、各布教師は、布教の都度必ず叡山講員の勧誘を法話の中心となる様努められたい。
- 一、叡山講員にして祖山へ特別の寄附をせられたる方に、座主猊下或は宗内門跡及び大寺高德者の揮毫品を贈呈する準備があるから、御含みの上、精々勧募せらるる様相願度い。
- 一、目下祖山に於いて一般信者のため、北谷に結縁灌頂の道場を作り常設する予定であるから利用せられたい。
- 一、叡山講員の祖山参拝の節は教区担当の連絡員が、御世話や便宜

をとりはからう。

一、叡山講員の団参の節は、本山駐在布教師が講話をする事になつて居る。

一、叡山講員の団参の節は、滋賀院で御座主猊下から親しく御十念の御授をうけ、なお、御対面、御言葉を賜ることになつて居るから滋賀院へお参りになる様。

一、叡山講各教区担当連絡員が左記の如く定まつたから承知相成た
い。

叡山講教区担当連絡員名簿

担当教区	本山住職寺名	氏名
滋賀教区	妙行院	梅山 円了
京都教区	実蔵坊	尾崎 光尋
近畿教区	寿量院	獅子王 円信
近畿 <small>(和歌山 大阪奈良)</small> 教区	金台院	赤松 円瑞
兵庫教区	戒定院	山田 恵諦

東京 <small>(下谷、浅草)</small> 本所教区	神奈川教区	信越教区	北陸教区	同 <small>(岐阜)</small>	同	東海 <small>(愛知、静岡)</small> 教区	三重教区	九州西教区	九州東教区	四国教区	山陰教区	同	岡山教区	同
仏乗院	唯心院	双巖院	善学院	円乗院	真藏院	大仙院	千手院	行泉院	松寿院	大林院	無量院	華藏院	護心院	戒光院
三浦義薰	渡辺恵進	福恵道暢	福吉円鈔	渡辺恵章	森川淳契	滝藤尊教	生田孝憲	喜里山光觀	武覚円	今出川行忍	池山一切円	森定慈紹	葉上照澄	桜井恵暢

狛下は森川教学部長、大橋教務課長、その他随員を随えられ、この日午前九時大津駅を御出発、同四時鯖江に御到着、直ちに教区長の住職寺である中道院に趣かれ、御休憩の暇もなく西村教区長から被害状況を御聴取された。

七月十六日 午後一時から福井市中央広場に於いて横死者慰霊の大法要を厳修、参詣の老若約五千を数えるの盛儀であった。終つて、市役所、県庁、新聞社その他を御訪問され、金一封を呈して御慰問の言葉を述べて夕刻中道院に御帰着された。翌十七日午後五時無事御帰山された。

七月卅日 祖山に於いて、かねて要望の声高かった天台宗布教師会が結成された。当日の参集には東京、岡山、長野、名古屋、群馬、兵庫、京都、滋賀の各府県から約二十名の布教師の出席があり、発起人代表荒樋栄実の開会の辞、次いで座主狛下の御言葉、森川教学部長の挨拶、山田延暦寺執行の祝辞、次いで発起人代表の経過報告等があり、座長に曼殊院門跡山光円、副座長には荒樋栄実、水谷教章を満場一致で

選出し、本部役員の選挙等が行われ、議事に入ったが、座主猥下に於かれても長時間に涉り御聴論された。

八月一日 浜名徳潤が執行長に任命された。

八月自廿一日至廿五日 妙法院門跡大僧正三崎良泉は戸津説法を勤仕した。

九月十八日 座主猥下には近畿所在の仏教各宗主管者と共に第一軍団司令部に出頭し、軍政部長バーンズ大佐から「日本国の民主化徹底に協力せられたい」との請願を受けられた。

九月廿七日 滋賀教区では今春来全部内に亘り御親教を申請、その大半を終わったが、残り愛犬部及蒲南部の御親教は九月廿七日と十月二日に夫々行われた。猥下には森川教学部長、梅山延暦寺幹事、山口、荒樋両布教師、駒田教区長以下を随えられ部内各寺院、檀信徒御出迎の中に定刻会場御到着、予定の次第に随って滞り無く一切の行事を終了された。両会場とも剃度者は予定の人数を遙かに越えた。

十一月廿四日 延暦寺仲座職法眼山中祐源が他界した。

昭和二十四年乙丑二月自八日至九日 滋賀院本坊に於いて、叡山講総本部会議法に

に基づき代議員会が開催された。当日出席の代議員氏名は次の通りである。

教区名	氏名	教区名	氏名
本山	北河豊治郎	滋賀	田中弥市
京都	洲崎作平	近畿	熱川裕通
兵庫	畑和孝	岡山	山本猛
山陰	植田美実	三重	浦田平蔵
東海	田中平六	北陸	久島治良助 代熊野九郎右衛門
埼玉	岸野個太郎	福島	二階堂権兵衛
宗会代表	木下寂元	宗会代表	滝本慈選
宗会代表	大樹承算	教区代表	高柳亮真
教区代表	内藤広隆	教区代表	筧堯海
局長推薦	三崎良泉		

以上十九名により次の如き日程で会議が行われた。即ち八日は十時三十分開会、仮議長の指名により議長は兵庫の畑和孝、副議長に埼玉の岸野個太郎が夫々当選別室に於いて座主猥下から任命の辞令を受け、続

いて内仏に於いて座主猊下の御導師で音楽法要があり、続いて猊下から諭示を賜わった。

諭 示

熟々現下の世相を觀るに既に戦後第四春を迎へたるに未だ人情輕薄道義頽廢民心徒に諍争を事とし或は己を利するに急にして國家の再建と國基培養の大局を顧みざる者尠しとせず、我國の前途轉た寒心に堪へざるものあり本職の顧念憂懼して片時も安ぜざる所なり。

抑々今次我國の当面せる事態は國史未曾有の一大事象にして民心その方途に惑ふも亦故なしとせずと雖も今にして速に正しきに就かずんば事或は民族の存亡に関するものあるに思を致す時民心の匡救に瞬時の緩急を許さざるものあり。恭しく惟みるに往昔宗祖傳教大師円極の妙宗を比叡山上に開創し國体相應の大乗仏教を實現して全日本大和合の本義を顕揚し給いしより台門の仏法恒に王法を翼け國家を鎮護し法雨永えに群生を潤せり。洵に法華一乘の精髓に依らずん

ば何を以てか濟生利民の績を挙ぐる事を得ん。

祖意深遠今日我國の危局に方りて之を仰ぐに弥々高く之を斟むに益々深し衲等適々生を此の國家多難の秋に享く豈祖意を虚うして晏如たるを得んや。

是を以て今次我か宗は教化の機構を一新し昨年度に於いて叡山講を組織し時局に即応せる態勢を整へ大いに祖意を恢弘し益々宗風を宣揚し本末一如本山檀信徒の直結を計り時局匡救の実を示さんことを期し其の準備と事務の進捗を督励し来る。

幸に本日茲に総本部代議員諸氏の参集を得て第一回総本部會議を開会するに至るは本職の最も欣幸とする所なり。

庶幾くは齊しく力を協せ深く祖訓の核心に生き具さに時弊の根源を究め抜本塞源の方策を考究し以て祖意を體現せられんことを。

昭和二十四年二月八日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

三月四日 大林院僧正今出川行忍は延暦寺執行に任命された。

三月十八日 四天王寺にて平和祈念靈堂法要が厳修された。

三月十九日 御親教を申請して決定された教区寺院名は左の通りである。

三月十九日——三日間 滋賀教区東南寺

同廿三日 岡山教区国分寺

同廿六日——三日間 九州西教区長寿寺

四月十三日——二日間 兵庫教区八葉寺

同十八日 東海教区高田寺

同廿三日——三日間 福島教区観音寺

同廿九日 山陰教区長台寺

三月廿日 滋賀教区蒲生郡東南寺に於いて、座主狛下御親授の円頓戒受戒会が修行され、山口教学部長、延暦寺梅山幹事が随行した。

三月廿六日 午前八時半、比叡山上東塔五智院で道路工事人夫の焚火

の不始末により火事が発り、延暦寺事務所員、その他多人数がかつけ消火に当った。

四月自十四日至十一日 本年度恒例御修法は延暦寺根本中堂に於いて、座主親下始め、各門跡、地方代表、山内住職等が参勤の上、鎮将夜叉大法を嚴修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

六月四日 例年の長講会は比叡山上浄土院に於いて、午前十時から座主親下御証義の下嚴修された。

六月十日 一柳恵俊が執行長に任命された。

七月廿日 延暦寺一山真蔵院住職僧正森川淳契が望擬講に補任された。

七月廿日 妙法院門跡大僧正三崎良泉が望擬講に補任された。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山戒定院住職僧正山田恵諦は戸津説法を勤仕した。

八月廿五日 李王殿下、妃殿下、他随行員が午前来山され、書院で御休憩、昼食の後、午後二時のケーブルで下山され、滋賀院で夕食され

た。

八月廿七日 愛知県大府延命寺伊藤円澄示寂葬儀執行に付き、猥下は午前六時半森川教学部長、坂本村村長赤松円瑞を随行して御出発された。

八月卅一日 本日延暦寺合同問題に対する意見交換会議が開かれた。出席は、一柳執行長他各部長、延暦寺執行その他であった。

十月六日 渋谷猥下の三回忌法要が厳修された。

十月十七日 比叡山横川鶏足院灌室に於て、横川院内が中心となり結縁灌頂を行った。

十月廿八日 魚山遮那院多紀道忍は去十月廿六日午後二時四十分遷化、本葬儀はこの日当院に於いて座主猥下導師の下で執行された。

十月廿八日 大僧正浜中光暢四大不調の所本日遷化、廿九日密葬、十一月廿七日本葬儀が執行されることになった。

十一月四日 第三回教学大会は紅葉色どる十一月四日、五日の両日比叡山上宿院に於いて左記次第により盛大に開催された。

記

一、開会の辞 荒樋栄実

一、法楽諭示 座主猥下

一、経過報告 塩入教学研究所長

一、挨拶 今出川延曆寺執行

一、研究発表 平了照他七名

一、閉式の辞 岡田教学研究所主事

十一月十五日 数年中絶の形に成って居た茨城教区主催の御親教は去る十一月十五日から行われ、社会教化的役割の絶大な効果と、本山と末寺とを直結させ宗風を宣揚する効果とを挙げた。尚、この結果に感銘した同教区は、来年度も亦猥下を拜請することに決定した。

記

月	日	会場	御親教	法儀	行事	備考
十一月	十五日	久慈町千福寺	座主猥下諭示 荒樋随布教師法話	世界平和祈願 戦争犠牲者慰霊法要	回向 経木塔婆	一般参会者 三〇〇〇人
同	十六日	同 右	荒樋随布教師講演	久慈町民先亡一切 精霊特別法要	同	同上 二〇〇〇人

同	同	同	同	同	同	同
十七日	十八日	廿一日	廿四日	廿五日	廿七日	十二月 二日
水戸市 薬王院	東那珂村 月山寺	大津町 長松寺	玉川村 西蓮寺	同 右同	黒子村 千妙寺	大花羽村 安楽寺
座主 狝下 諭示	荒随 随布 教師 法話	同	同	同	同	同
世界 平和 祈願	戦争 犠牲者 慰霊 法要	同	同	同	同	同
平和 観音 開眼 式	檀信 徒剃度 式六〇〇人	檀信 徒剃度 式七〇〇人	檀信 徒剃度 式七五〇人	檀信 徒剃度 式七五〇人	檀信 徒剃度 式七五〇人	檀信 徒剃度 式七五〇人
二〇〇〇人	一五〇〇人	二〇〇〇人	一〇〇〇人	一〇〇〇人	三〇〇〇人	二〇〇〇人

十二月十四日 延暦寺に於いて、叡南祖賢大行満の安楽律院住職就任披露会があり、執行、幹事其の他が参列した。

十二月十五日 法律第二百七十号で私立学校法が公布された結果、宗教団体が経営する学校もすべて学校法人を設立してその法人によって経営しなければならぬことと成った。但し同法附則第百二条の規定により、幼稚園は当分の間学校法人を設ける必要がない。併し学校法

人を設けて経営する場合、政府並びに地方公共団体に対し助成金の交付を申請したり、その他若干の特典が与えられることになった。

十二月廿三日 午後十時頃安楽律院（叡南祖賢大行満住職）の正殿より出火し本堂、正殿、庫裡、浄人寮、鐘楼、納屋の六棟を全焼したが、幸に本堂本尊の外、仏具類、正殿本尊、什物約半分、護摩堂、幻々庵、山門、経蔵、板木蔵、宝蔵、工部所は無難であった。

十二月廿五日 比叡山延暦寺から申請中の境内地無償譲与につき廿四日の社寺境内地処分中央審査会で無償譲与に決定した旨本日同寺に通知があった。因に同境内地は四百二十町歩であり、全国寺院中一番大きい。

昭和二十五年^{庚寅}一月廿六日 本庁より次の如き令達が発せられた。

本日我が宗立教開宗の記念日に当り座主猥下、特に諭示を発せられました事は誠に恐懼に堪へぬ次第であります。惟ふに、終戦後宗教は自由の立場に置かれたとの事のみ依って、宗義上の確乎たる理由もなく、従来所屬の宗派から独立するものがある等は遺憾であります。猥

下が老軀、只管御憂慮になるところは今徒らに所属宗団と絶縁せんかその薫化力の依って生ずる背景を欠くが為に将来に於いて、自らの教化力を耗滅し内外の嗤笑を買ふの結果に終ることでありませぬ。吾が宗内に於いては万々かかる輕卒の挙に出でらる事なしと信ずるものであります。此の際貌下の御諭示の旨を体し自省自誠愛宗護法の思慮を廻らされ天台宗団の健全なる發達を図り、上祖徳に酬いらるる事を祈って止みませぬ。

昭和二十五年一月廿六日

執行長 僧正 一 柳 恵 俊

諭 示

宗祖大師天台円頓の宗を開創し給いしより茲に、千百有余年光輝ある伝統と歴史とを保有し、祖山に帰一して不断に国土安穩仏法興隆の實を挙げ来れり。然るに我国戦後百般の機構未曾有の變革を極め世風の推移現下尚中正ならず。政界亦之に禍いせられ、時に或は自恣の行動を敢てし宗団の伝統を紊すものを出すこと無しとせずと老

納之を仄聞し仏祖の冥鑑に願みて夙夜憂慮に堪えず、教家、本然の使命達成は鞏固なる宗団の総力に俟つ、宗徒深く自から省み、思索の巽を慎み相率て輕挙を誠め和衷克く宗団の結束を固うし宗風の発揚に邁進せんことを冀望して止まざるなり。

昭和二十五年一月廿六日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

執行長 僧正 一 柳 惠 俊

二月二日 荒樋栄実は比叡山専修院々長に任命された。

二月五日 比叡山戒蔵院に於いて天台宗修験道法流総会議が開催され、各役員、委員が参集し、各般に亘る制度と人事の大更改が議決された。其の中組織に就いて最も異色ある点は、天台宗教師僧俗は勿論、各教宗派教団の僧俗を問わず、そのまま同法流の教師と成る事が出来る様になった事である。

二月十日 座主猊下は、名古屋の大隈栄一氏の葬儀に、教学部長及び菅田主任を随行して参列せられた。

三月二日 延暦寺一山觀明院住職福吉円鈔は延暦寺執行に任命された。
三月三日 叡山講規定第一条第六項に基づき福聚教会規程が定められた。之により宗祖大師を讃仰し信仰を培養する為詠歌和讃等を唱詠する事と成った。

四月一日 本庁の執行長の呼称が再び従来の「宗務総長」に戻される事になった。従って執行長一柳恵俊は宗務総長に任命された。

四月一日 延暦寺一山葉上照澄は比叡山高校々長に任命された。

四月自十四日至十一日 本年度御修法大法は延暦寺根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方代表山内住職等が参勤の上、熾盛光法を厳修し玉体安穩宝祚長久並に鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月廿日 総本山延暦寺叡山講大法要の結願日に当り、午後二時から、本宗修験道所属教師数百名参集のもとに根本中堂御宝前に於いて採灯大護摩供を奉修した。同日午後七時山上宿院に於いて教師大会を開き、役員決定の上議事に入り、各般に亘る本道興隆に就いての意見を開陳して協議を為し、之に伴なう制度の変更等に就いては、小委員会を設

置して審議の上決定する事を申合せた。
任命された役員は次の通りである。

修験道管領 宗務総長僧正 一 柳 恵 俊

事務局長 庶務部長権僧正 黒 田 坦 海

幹事(事務主任) 財務主事僧都 上 野 智 信

五月八日 延暦寺一山戒定院住職僧正山田恵諦は望擬講に補任された。

五月廿日 青蓮院門跡太田深澄、延暦寺一山吉祥院住職佐井紀皎覚、

延暦寺一山本行院住職太野垣善浄、延暦寺一山大行満叡南祖賢は夫々望擬講に補任された。

擬講権大僧正福恵道暢は已講に補任された。

五月廿一日 讚仏堂に於いて午前九時から、午後九時三十分迄の間別請広学堅義が嚴修された。

業 三惑同断 副 権乗下種

探 題 恵心院大僧正

豎 者 雙巖院権大僧正 福 恵 道 暢

一之問 円乗院権大僧正 渡 辺 恵 章

二之問 妙法院門跡権大僧正 三 崎 良 泉

三之問 戒定院僧正 山 田 恵 諦

五月廿二日 已講権大僧正渡辺恵章は探題に任命された。

六月四日 例年の長講会は比叡山上浄土院に於いて、午前十時から座主猊下御証義の下巖修された。

六月十五日 本庁に於いて、午後一時から三千院門跡後任住職の選挙が行われた結果、東海教区密蔵院住職僧正水谷教章が当選し任命された。

六月廿二日 国宝建造物調査のため、ジョーシ・ケイツ氏が来山した。

七月八日 本庁に於て、午後一時から准別格大寺毛越寺後任住職の選挙が行われた結果、陸奥教区慈光院住職大僧都穂積慈玄が当選した。

七月十五日 本庁に於いて午後一時から別格大寺浅草寺後任住職の選挙が行われ埼玉教区喜多院住職権大僧正塩入亮忠が当選した。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山叡南覚誠は戸津説法を勤仕した。

九月三日 近畿地方は「シェーン台風」に襲われ、各地に甚大な被害を生じた。比叡山上の被害も大なるものがあつた。

九月九日 山口光円は比叡山専修院々長に任命された。

九月自九日至十日 天台宗第三回布教師会総会は九、十の両日比叡山上宿院に於いて開催される予定の処過般の台風に依り山上の被害甚大で、殊に会場である宿院の被害も予想外であるため、会場を変更して滋賀院門跡に於いて開催し一宗に左記の如き声明書を発表し、教学部長に具申すると共に、会員各自申合せを行ない、盛会裡に終了した。

声明書

現下本宗の実状を顧みるとき、世態の変遷に対応して新鮮活発な活動を展開し得ないばかりでなく、所属中より、一、二有数なる寺院の背反独立するものを生じた事は誠に遺憾の極みであります。是偏に信仰為本たるべき宗徒觀念の薄弱、乃至欠除に因るものであつて是が培養の任にある我等布教師の努力の足らざりし為と痛感して

慚愧に堪えません。依って我等布教師は一致結束して宗徒及び檀信徒の愛宗護法心の昂揚と宗内人心の安定を図り相共に、宗祖大師の立教開宗の御精神に鑑み、座主猥下の御慈旨を体して離脱等の輕挙妄動を慎み、祖廟を中心として以って一宗の興隆發展を期するものであります。

右声明します。

昭和二十五年九月十日

天台宗布教師会

九月十一日 去る八月廿五日遷化した一柳恵俊宗務総長の本葬儀が、本日午後二時から比叡山麓滋賀院門跡に於いて、天台座主猥下の御導師の下一山大衆の出仕により、天台宗葬を以て執り行われた。

九月十五日 宗務庁に於いて、午後一時から後任宗務総長の選挙が行われた結果、兵庫縣飾磨郡曾左村大字書写仙岳院住職僧正大樹承算が当選し任命された。

九月廿九日 社寺国有境内地の譲渡後に於ける管理について、大蔵省管財局長から仏教連合会理事長宛に左記の通りの令達があった。

「社寺国有境内地の譲渡後に於ける管理について」

社寺等に無償で貸し付けてある国有財産の処分に關する法律の規定によつて今回神社寺院又は教会に対し譲与又は時価の半額売払した境内地は将来その社寺等に於て責任を以て維持保全し専らこれを宗教活動に使用すべきものであります。がその譲渡に際して何等の条件を付けなかつた為譲渡後間もなく謂所宗教目的外に使用し更に之を売却する等の事件が度々生じている事は甚だ遺憾な事であります。御承知の通り国有境内地の処分に際しては新憲法の政教分離の精神により且つは宗教家の道義的責任に信頼し譲渡後に於ける境内地に就いて何等の条件を付けなかつたのであります。が最近前記の事件が漸次増加する傾向があり、会計検査院等も既にこの事実を注視している。ので国有境内地処分の円滑な処理上に重大な支障を招く慮がありますから管下各府県

神社庁仏教会又は教宗派の主管者に対してこの境内地の管理処分について尚一層の注意を喚起しその取締について別段の御協力方示達下さる様重ねて御願ひする。

十月九日 宗教法人令施行以来、大寺の独立があり一宗の団結につき憂慮す可き事態相次いで生じ前途甚だ不安の際、更に浅草寺の離脱を見て、最早や坐視するに忍びないと九月廿五日北海道函館天祐寺住職山口智順権大僧正が本山に登り、座主猊下に所懐の衷情を申達し、又転じて五ヶ室各門跡を訪ね意中を披瀝し、宗風宣揚の事を進言され、更には四天王寺に田村徳海大僧正を訪ねて旧に復する様勧められる等、誠意を展開された。予てから機会が有ればと念じて居た各門跡は、止みがたい愛宗の発露より、茲に不惜身命の決意を以て一斉に奮起され、宗祖伝教大師の御精神を顕揚し、宗風を振興する様、本日、本山滋賀院に会合された。恰も、十月七日総本山檀信徒総代北河豊次郎氏は、現下の宗状に關し烈々の誠意を書翰に托して座主猊下に申達される事

があり、主催者としては心機一致を喜び、電報を以て同氏の登山参会を乞い、茲に僧俗一体数時間に亘り終始一貫国家の将来と宗団の使命に就いて真摯な談合が交わされ、国民精神を匡救し善導する途は一に宗祖大師の御精神を宣伝高揚し、宗風を全土に靡かせるより他に無いと云う結論に到達した。依て更に関東の門跡、大寺の方々にも此の意を伝えて発起者に加つて貰う事になり、十月十日、山口曼殊院門跡が代表東上の上各方面を歴訪し、何れも心からの賛同を得た。そして十月末には再度全発起者が本山に集り祖廟宝前に於いて懺悔し、宣誓し、方法を定めて、清く強く新運動の第一歩を踏出す事に申合せが出来た。因に、此の会合に出席されたのは次の諸師である。

滋賀院門跡	権大僧正	即	真	周	湛
妙法院門跡	権大僧正	三	崎	良	泉
曼殊院門跡	権大僧正	山	口	光	円
毘沙門堂門跡	権大僧正	川	原	田	円
		匡			

三千院門跡 僧 正 水 谷 教 章

北海道天祐寺 權大僧正 山 口 智 順

総本山檀信徒総代 北 河 豊 次 郎

十月廿一日 門跡寺並大寺住職時局対策緊急協議会が、比叡山上書院に於いて午前十時から午後五時迄開催された。当日は先づ祖廟に参拝し、座主猥下御導師の下に参集者一同法樂を修し、終つて猥下から特に御挨拶を頂き、宗門総親和、宗義昂揚に付き更に一段の努力を望む旨御諭しがあり、之に対して山口曼殊院門跡が答辭を申上げ、協議に入つてからは、終始和氣霽々の裡に討議して、左記要項の決定を見たのである。

参集者（順序不同）

輪王寺代	菅 原 栄 海	善光寺	清 水 谷 恭 順
滝泉寺	青 木 道 晃	喜多院	塩 入 亮 忠
妙法院	三 崎 良 泉	滋賀院	即 真 周 湛

毘沙門堂	川原田 円匡	三千院	水谷 教章
曼殊院	山口 光円	延命寺	茂渡 恵寛
真如堂	竹内 純孝		
檀信徒総代	北河 豊次郎		
宗務総長	大樹 承算	教学部長	山田 恵諦
庶務部長	熊谷 寂澄	執行	福吉 円鈔
幹事	梅山 円了	幹事	菅田 玄昭
同	赤松 円瑞	同	福田 実衍
	今出川 行忍		三浦 義薫
録事	熊岡 堯順	(以上二十三名)	

協議決定要項

一、総親和に関する件

- イ、宗門の内外に総親和運動を起す事
- ロ、宗門の内外に亘りて連絡提携を緊密にする機関をつくること

二、宗義宣揚に関する件

イ、「比叡山」誌を再刊して宗義を宣揚すると共にそれに附随して宗報を詳密にすること。

(右委員に三崎良泉、山口光円、宗務庁、延暦寺)

ロ、「伝教大師奉讃会」を復興して其の活動を大ならしめ且つ機関誌を発行すること。

(右委員に青木道晃、塩入亮忠、菅原栄海、北河豊次郎)

十一月十七日 宗務庁に於て午後一時から後任宗務総長の選挙が行われた。その結果岡山教区大円寺住職、権大僧正清田寂坦が当選し、任命された。

十一月十九日 茨城県石岡町高照山東耀寺に於いては今般平和慈母観音を造立し、世界平和に寄与しようと、座主貌下を拝請して開眼法要が行われた。貌下は十一月十八日午前つばめ号で随行熊岡録事、菅田延暦寺幹事を従え御出発午前八時半無事会場東輝寺へ御到着、十九日は、快晴で、石岡町は勿論近郷近在からこの法雨に浴し様として参拝

者其の數三万人に達した。法要は左記の次第で盛大に行われた。

平和慈母觀音開眼大法要御親教次第

一、一番鐘 午前十時二十分

大衆東耀寺本堂御參集

二番鐘 午前十時三十分

大衆御裝束

三番鐘 午前十時四十分

大衆東耀寺御出発

行列 午前十一時

二、行列次第（檀徒総代高野喜兵衛氏宅より東耀寺まで四丁道中散華）

先旗（座主旗）、次先導法螺師（三名）、次詠歌衆（四十名）、次稚児衆（五十

名）、次出仕大衆（二十名）、次高照山主、次延曆寺座主管長猊下（籠）、

次本山随行師、次奉讃会員

三、護摩供之攸 正午

先大衆入堂口上座、次大導師管長猥下入堂、次一同着座、次大導師登礼盤、次表白、次五大願、次大衆助呪、次隨方回向、次諷誦文、次心經一卷、次後唄、次大導師降礼盤

四、御親教之攸 午後一時

先諭辭、次管長猥下正座、次奉讚会々長総代挨拶、次護摩師登礼盤、次大衆助呪、次後唄、次大衆出堂下座立、次大導師出堂

五、供養塔回向之攸

先大衆列立、次大導師塔前、次自我偈、次觀經文、次念仏十返、次総回向、次大導師御退出、次大衆退座

廿日猥下は御休憩の違もなく御出発、御元気で午後九時帰叡された。十二月四日 延暦寺一山円乗院住職探題大僧正渡辺惠章は本日遷化した。

昭和二十六年^{辛卯}一月十日 延暦寺一山叡南覚誠は望擬講に補任された。

三月五日 サンフランシスコ媾和条約を前にして座主猥下から次の諭示が発せられた。

諭 示

今年、若し伝ふるが如く媾和が成立して自由と、平等と、正義とを理念とする高度の文化国家に、立直るを得るなれば、わが日本国民は人類史上にかがやかしい光明期を現出せしめることと、将来への希望大なるものがある。

しかし、道は遠く且つけわしい。世界は二大思想の対立に大きなうねりが生じているが、私どもまでが、之にまきこまれて、地の声を聴くにさとくして、天の声に耳をおおうようなことがあっては第三次の不幸を招き、やがて宗教の權威を極度に失うに至るであろうことを恐れる。抑も、仏徒は真俗ともに、帰依三宝に生き、帰依三宝に死すべく常に殉職者的態度を堅持し、如何なる苦難にも打ち勝つて行く金剛心を心の奥に埋没せしめてはならない。円満なる智慧と、広大なる慈悲の体であられる御仏に身を捧げ、そのみ心に従って各々がその分限をつくすことが、活きた私どもの文化生活である。行

為に、言葉に、まことを打ち出し、自己を磨き、社会に仕へる、かくてこそ諸天善神の恵みにも浴し社会は浄化せられるのである。わが宗の根本聖典たる法華経に、仏徒の生活の基本として、懺悔、勸請、随喜、回向、発願の五要心が説かれているが、これを日夜に遵奉して、各自の生活を営むなれば、それがやがて「一隅を照す」人となり、自然に宗祖の御心にも沿い、三世諸仏の護念をこうむるのである。

願くば、国家存亡の重大な時期に際し、わが山の千古の法灯を各自の胸に移して、随時随所に世に照りわたらせ、文化の梢を芽ばえしめんことを念願する次第である。

三月十日 望擬講権大僧正即真周湛は擬講に補任された。

四月一日 宗学法の改正によって比叡山専修院、比叡山専門学院が廃止されて、天台宗立叡山学院に改組され、觀明院住職福吉田鈔が学院々長に任命された。

四月^{自十四}至^{十一}日 本年度恒例御修法は総本山の根本中堂に於いて、座主貌

下始め各門跡等参勤して、七仏薬師大法を嚴修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

五月十九日 讚仏堂に於いて午前九時から翌朝迄、別請広学堅義が嚴修された。

業 爾前身土 副 三諦勝劣

探 題 延曆寺座主大僧正

堅 者 滋賀院門跡権大僧正 即 真 周 湛

一之問 雙嚴院住職権大僧正 福 恵 道 暢

二之問 玉照院住職権大僧正 叡 南 覚 誠

三之問 戒定院住職権大僧正 山 田 恵 諦

已講権大僧正福恵道暢は探題に補任された。

五月廿日 擬講権大僧正即真周湛は已講に補任された。

六月四日 長講会は比叡山上浄土院に於いて例年の通り座主猊下御証

義の下嚴修された。

七月四日 望擬講叡南覚誠は擬講に補任された。

八月自廿一日至廿五日 津金寺住職池田長田は戸津説法を勤仕した。

九月八日 この日米国サンフランシスコ市に於いて、第二次大戦で無条件降伏した日本と四十八の連合国との間に、対日媾和条約が調印された。

九月自廿九日至卅日 延暦寺戒壇院に於いて大乘円頓授戒会が嚴肅裡に行われた。

伝戒大和尚 天台座主大僧正

羯磨説浄兼俱 大林院権大僧正 今出川行忍

教授師 寿量院僧正 獅子王円信

十月自一日至五日 法華大会広学豎義が総本山延暦寺大講堂に於いて嚴修された。

臨監 勅使 子爵 唐 橋 在 知

探題 延暦寺大僧正 玄 秀

探題 雙巖院権大僧正 道 暢

已講 滋賀院門跡権大僧正 周 湛

擬講 玉照院権大僧正 覚 誠

会行事 松寿院大僧都 覚 円

昭和二十七年^{壬辰}二月七日 宗教法人法による宗教法人「天台宗」の設立

登記を行った。

二月廿五日 宗教法人「天台宗」の設立にともない座主猥下より諭示が発せられた。

諭 示

各宗派に魁けて宗制の認証を得、国法による宗団としていよいよ二利の善行を励み、社会の福祉に貢献することを得るに至りたるは、一に宗徒団結して推進したる結果にして、歡びに堪えません。

国家独立の機運目睫に迫ると雖も、而も猶、世界は二分せられて、我が国の前途、永遠の和平保持に憂慮すべき事態を見ることは、遺憾の極みであります。宜しく此際、党同伐異の悪風起ることなく、挙宗一致、寺檀一体祖意を奉体して一仏乗の顯現に努め、総親和のもと、総力を挙げて宗風を宣揚し、速かに仏国土を成じて、人類の

幸福を増進せんことを希う次策であります。

三月四日 日光一山菅原栄海は日光輪王寺門跡に任命された。

三月末 根本中堂半解体大修理のため素屋根を構築した。

四月自十四日至十一日 本年度恒例御修法大法は延暦寺大講堂に於いて、天台

座主猊下始め各門跡、地方代表、山内住職等が参勤して、普賢延命法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月廿八日 占領下の日本はこの日よりその主権を回復し独立した。

六月四日 例年の長講会は比叡山上浄土院に於いて、午前十時から座主猊下御証義の下厳修された。

座主猊下は本日諭示を発せられた。

諭 示

仏法の大海は信を以て能入の門となす。信仰は安心獲得の基本にして如来の室に入る唯一の資糧なり。仏子たるもの須く先ず自ら帰命三宝に徹し、三軌弘経以て化益に精進せねばならない。

今や全世界は凡てを挙げて永遠の平和を求めつつあるも、思想を異

にする二大勢力は一致協調を得ず、和平の具現容易ならざる事情にあるは遺憾にして、今にして宗教の力を発揚せずんば何によってか之れを打開し得ん。宗教は機に応じて功用を現わす。之を信ずるものに差別なし。而も我が中道実相の妙理は絶大の真理にして、世界何れの宗教も皆その本源を此の妙理に発す。何れの世、何れの時、何れの人に対しても時宜に適し、機根に応じて自らの信仰を以て之を引導する時は、その人必ず心安かに生活し社会は平和に帰せん。信仰の世界に不可能の文字なし。不自惜身命は如来の金言なり。然も天台に法統を継ぎ、円宗に信心を培う老衲他に依存し、自らを愛して仏祖の冥鑑に乖きつつあるを怖る。既に一心三觀の教化は平安長期の平和を保持し、一実神道の宗風は江戸三百年の長春を指導したり。之ら過去の実証に徴し、また現下社会の実相に鑑み、時を今と限り身魂を尽し精誠を運んで澆季の苦患を除かんと欲す。同法の諸師自ら信仰に徹すると共に、檀信同行の信心培養に力を致し、老衲と共に祖風を宣揚して、世界恒久平和の樹立に力を竭さん

ことを懇望す。

昭和二十七年六月四日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

八月自廿一
至廿五日 延暦寺一山大林院住職今出川行忍は戸津説法を勤仕した。

九月十五日 延暦寺一山大林院今出川行忍及び津金寺住職池田長田は望擬講に補任された。

十月一日 延暦寺一山観明院住職権大僧正福吉円鈔は延暦寺執行に任命された。

十一月八日 東京で行われた世界仏教徒会議に参加した十八ヶ国の代表が登叡し大講堂での仏舍利供養法会に参加した。

十一月十日 立太子礼式御挙行に際し天皇、皇后両陛下、皇太子殿下に本宗より賀表を捧呈した。

十一月十五日 東京巢鴨拘置所に於いて、天台座主猥下御親修のもとで、戦犯受刑死者並びに受刑中病歿者殉難英霊の慰霊法要を厳修した。

昭和二十八年癸巳四月一日 延暦寺一山葉上照澄は叡山学院々長に任命さ

れた。

四月自十四日至十一日 本年度恒例御修法大法は総本山大講堂に於いて、座主

猊下始め各門跡、地方代表、山内住職等が参勤して、鎮将夜叉法を奉修し玉体安穩宝祚無窮並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十日 学校法人延暦寺学園に比叡山幼稚園が開設せられ、この日開園式並びに入園式が行われた。

四月廿六日 善光寺大勸進住職僧都東伏見慈洽は青蓮院門跡へ転任するため善光寺大勸進を辞職した。

五月自十一日至十一日 讚仏堂に於て午前九時から翌朝迄別請広学堅義が嚴修された。

業 弥陀報応 副 八教授不

探 題 延暦寺座主大僧正

堅 者 法曼院住職 大僧正 叡 南 覚 誠

一之問 滋賀院門跡 大僧正 即 真 周 湛

二之問 妙法院門跡 大僧正 三 崎 良 泉

三之間 松禪院住職権大僧正 山 田 恵 諦

擬講叡南覚誠は已講に補任された。

已講大僧正即真周湛は探題に補任された。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が午前十時から座主猊下御証義の下で厳修された。

六月十日 比叡山横川恵心堂で例年の恵心講法要が勤まったが、今年からは六道講式が中山玄雄僧正の指導の下にて復興された。

六月十五日 東伏見慈洽師は青蓮院門跡に任命された。

七月十九日 九州地方大水害見舞のため、清田宗務総長、福吉延暦寺執行は本夕本山を出発し現地へ向った。

八月自廿一日至廿五日 上野春性院住職二宮守人は戸津説法を勤仕した。

十月十一日 比叡山横川中堂政所の近くに高浜虚子の爪髪塔が建立され、一山僧によって開眼法要が厳修された。この虚子塔は逆修回向として、地元句友や同人の協力で、椿の木の多く植え込まれた浄地に出来上った。因みに、比叡山には、裳立の峯に紀貫之卿の、飯室谷には

藤原定家卿の各々爪髪塔が建てられ残っている。

十月廿五日 延暦寺一山善学院住職権大僧正福吉円鈔は望擬講に補任された。

十一月十三日 比叡山延暦寺一山護心院葉上照澄阿闍梨は北嶺千日回峯を満行したので、この日京都御所へ参内し旧儀に則り玉体加持を奉修した。

十二月十八日 延暦寺仲座職法眼川喜多正円は本日他界した。

昭和二十九年^甲十一月一日

天台座主新年のお言葉

謹みて昭和二十九年甲午の新春を迎え、聖上陛下いよいよ御機嫌麗しく皇太子殿下ますます御成人遊ばされ御祝福至極に存じ上げます。旧年中は誠に多事でありまして先ず独立第一年を祝し、立太子礼に次ぐ御外遊御帰朝を祝し、此の間近年稀なる凶作不況に拘らず人心漸く太平の兆に向い李ラインの險悪なる風雲も荒立てずに静かに処理する雅量に住し、保安自衛の用語に見解の相異あれども等しく恒

久平和の念願は微動だもせず、党人頻りに離合集散常なきも一般国民は之を静観して焦眉の憂とせず、大体において悠々と国運の明日を隆昌ならしめんとして希望に輝くを見るは偏に敗戦後九年にわたる困苦欠乏に堪えたる辛酸の賜物にして常勝軍を夢みて輕薄浮華の毒酒に酔いしれたる過去の追憶が今さら新なるを覚えます。誠に戦前と戦後を対照して反省することは実物教育として此現場の教訓を国民一同は肝に銘じて忘れることが出来ません。只戦後一斉に立ち上った新宗教の繁茂については之に戦前戦後比較反省の質実さが其中に見出され得るか否かの再検討を要するものが多々あり、何も殊さらに新しく一宗一派を開く程の問題に触れる事は少しもなく、寧ろ昔からの宗教々義の正統が全面的につかめないで其一部門だけをゆがめて宣布していると見られる向きも少なくないかに見えます。それにしても昔よりの歴史由緒を持ち国宝文化財に恵まれ、あらゆる国家の保護の下に正統宗教の伝承を以て任ずる宗教人の活躍が少しも熱せず、徒らに拱手傍観して他人の宝を数える観あるは痛恨の

極みであつて折角の家の宝を死蔵することなしに思い切り之を自分の身にも付け他人にも実味して頂き之により日本は斯かる結構な国体を持ち世界の文運に対して之々だけの貢献をなしつつありと自覚することが出来たらば如何に緊張した幸福感が毎日を楽しくして呉れることであらうと思ひます。新興宗教は確かに結構な一面も持つて居るけれども過去の伝統文化と無関係でもあるかの如く装いそれが四分五裂してやや乱雑の觀をなして居る事は日本宗教の爲に取らぬ所であつて、宗祖大師が南都六宗の無統一を憂いて法華一乘を叫ばれた事は現在の国情にも其のまま適用されてよい先例であると思ひます。祖山の大堂の修理も宗門人の熱心なる協力により不日落慶供養の運びとなるべく、実に明年に控えたる天台大師御遠忌準備に宗門一同の胸は張り種々心おどりを感ずる期待もかけらるる本年の新春を心より祝福し弥々一天太平四海静寧の御祈願を凝らして、聖恩の無窮に答え奉りたいと思ひます。

三月二日 滋賀院内仏殿に於いて、探題相承式が、天台座主探題中山

大僧正から理性院探題即真大僧正へ、秘密相承の古則によって、行われた。

三月十六日 坂本日吉馬場律院本堂の落慶法要が座主貌下御導師の下三十二人出仕して盛大に行われた。

四月一日 延暦寺一山藤支哲道は叡山学院々長に任命された。

矢田部四郎は比叡山高校々長に任命された。

四月自十四日至十一日 本年度恒例の御修法は延暦寺大講堂に於いて、座主貌

下始め、各門跡、地方代理、山内住職等参勤して、熾盛光法を奉修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

五月二日 九州西教区大興善寺で御親教があった。

五月三日 九州西教区御井寺で御親教があった。

五月六日 近畿教区法安寺で御親教があった。

六月四日 比叡山浄土院に於いて午前十時から長講会が例年の通り座主貌下御証義の下厳修された。

六月廿日 東京上野春性院任職二宮守人は望擬講に補任された。

六月廿五日 宗務本庁では、四度加行は厳に古来の制に則るべきであるが、社会状勢の激変に応じて止むを得ず短縮する場合も卅五日以上履修すべきことを、宗内に告示した。

七月一日 来年四月執行の天台大師一千三百五十年遠忌を迎えて次の親諭が発せられた。

親諭

夫れ高祖天台大師廣大無辺の恩徳何の世にか報じ尽さん、夙に後身を比叡山日本天台宗祖伝教大師と現じて八家九宗隔つる事なき天子天台の宗風を掲げ神仏不二真俗一貫の一大円教を弘めて一切衆生悉有仏性草木国土悉皆成仏の法雨を注ぎ給う。是を以って慈潤普く上に霜月会の嚴儀勅会として行はれ下に大師講全国の年中行事となり百姓万民年々歳々報恩謝徳懋鄭重を極む、茲に千三百五十年の御忌を迎え折柄全世界あげて戦乱瀕死の危険に劫さるるに際し大いに一乗和合の祖訓を顕彰し此功徳を以って世界万邦戦没総霊に廻向し、願くば一天泰平殊には高祖の故国たる隣邦大陸と醍醐の法味を共に

せん事を

昭和二十九年七月一日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山善学院住職権大僧正福吉円鈔は戸津説法を勤仕した。

九月廿五日 第十三号台風によって比叡山山上山下に被害を蒙り、滋賀院門跡通用門等が倒潰した。

九月廿八日 光厳寺に於いて、群馬、茨城、栃木三教区共同で、御親教があった。

九月卅日 信越教区松源寺で御親教があった。

十月二日 信越教区釈尊寺で御親教があった。

十月七日 四国教区香古寺に於いて御親教があった。

十月廿一日 勅使石川忠氏及び文部省文化財技官等が来山し、勅封唐櫃の勅封を剪り唐櫃より嵯峨天皇御宸筆光定和尚戒牒を出して披覽した結果これを国宝に指定することに決った。

十月廿六日 來春の天台大師千三百五十年御遠忌並びに根本中堂修理落慶大法要の慶讃行事として比叡山名宝展をこの日から大阪大丸百貨店、続いて東京大丸百貨店に於いて開催した。

十一月七日 滋賀院門跡に於いて叡山学院が当番となって大藏会展観が行われた。午前は小牧実繁博士、午後は獅子王、森、両師の講演があった。

十一月十日 延暦寺一山勸修寺信忍大行満は今般北嶺回峯一千日を満行したので、京都御所へ土足参内し玉体加持を奉修した。

十一月十七日 東京天王寺大僧正福田堯穎は逝去した。

この年比叡山上防災工事として防雷と水道の二種類の工事を一千二百五十万円の予算で着手した。

昭和三十年^{乙未}四月^{自十一}日 本年度恒例御修法は、総本山比叡山延暦寺大講堂に於いて、天台座主猥下を始め、各門跡、地方選抜者、山内住職等が参勤して、七仏薬師大法を嚴修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。御衣奉迎奉還、巻数献上等は例年の通りで

あつた。

四月自廿九至廿九日

天台大師千三百五十年遠忌法要及び根本中堂大修理落

慶法要が今日から十日間山上にて行われた。

四月廿日開闢 於根本中堂

根本中堂修理落慶大法要本尊薬師曼荼羅供執行

催しもの

一、舞楽

振鉦、迦陵頻、胡蝶、万歳楽、延喜楽、陵王、落躑、春庭楽、白

浜、賀殿、還城楽、長慶子

二、献茶

裏千家今日庵宗匠一行

一、稚児練供養

一、福聚教会詠歌奉納

四月廿一日 於根本中堂

宗祖伝教大師報恩会講經論義執行

催しもの

一、奏楽 楽人奉仕

一、詠歌 福聚教会奉納

四月廿二日 於根本中堂

檀信徒各家息災延命祈願大護摩供奉修

四月廿三日 於阿弥陀堂

檀信徒各家精靈追善回向法要常行三昧嚴修

四月廿四日(中日) 於根本中堂

高祖天台大師千三百五十年遠忌法要高祖大師御影供奉修

催しもの

一、献茶 地元献茶会奉仕

一、稚児練供養

一、詠歌奏楽奉納

一、篆坦除幕式

甲冑武者礼射、居合、魔切、据物切

四月廿五日 於根本中堂

各宗祖報恩会奉修

催しもの

一、九州盲僧、妙音十二樂法要奉納

一、詠歌奏樂奉仕

一、献茶 名古屋宗匠連

四月廿六日 於阿弥陀堂

万国忠靈追悼回向法要法華三昧嚴修

四月廿七日 於中堂前広場

世界平和祈願採灯護摩供奉修

四月廿八日 於阿弥陀堂

永代祠堂納骨回向常行三昧嚴修

四月廿九日（結願） 於根本中堂

桓武天皇千百五十年聖忌法要御饑法講会嚴修

催しもの

一、京都河道屋そば献供

一、稚児練供養

四月廿一日 西塔釈迦堂解体大修理起工式が挙行された。約三ヶ年で完成の予定である。

五月十一日 滋賀会館に於いて、午前十時から、全県下忠靈追悼法要が中山座主猯下御導師の下十八口出仕して嚴修された。

六月四日 長講会が比叡山上浄土院に於いて例年の通り座主猯下御証義の下嚴修された。

六月廿日 望擬講池田長田は擬講に補任された。

八月自廿一日至廿五日 岡山県津山市大円寺住職清田寂坦は戸津説法を勤仕した。

九月一日 今井玄崇は延暦寺仲座職に就任した。

九月十五日 津山市大円寺住職清田寂坦は望擬講に補任された。

九月廿日 禪定院住職大僧正藤支哲道は延曆寺執行に任命された。

九月自廿九日
至卅日 比叡山延曆寺戒坦院に於いて、大乘円頓授戒会が厳肅裡
に行われた。

伝戒大和尚 天台座主大僧正

羯磨説浄兼唄 禪定院大僧正 藤 支 哲 道

教授師 大林院権大僧正 今出川 行 忍

十月自一日
至五日 法華大会広学豎義が総本山延曆寺大講堂に於いて厳修さ
れた。

臨監 勅使 旧堂上華族 飛鳥井雅信

探題 延曆寺 大僧正 玄 秀

探題 正覚院 大僧正 周 湛

已講 法曼院 大僧正 覚 誠

擬講 竹林院 権大僧正 長 田

会行事 円乘院 大僧都 惠進

十月五日 神田尚順は宗務総長に任命された。

十月九日 座主 梶下は、東京駒込学園創立三十周年記念式典に学園総裁として御臨席された。

十月廿日 延暦寺一山寿量院住職獅子王円信は叡山学院々長に任命された。

十一月八日 座主 梶下は天皇陛下より園遊会に御招待されたので大橋教学部主事を随行して東上された。

十一月廿四日 埼玉教区慈恩寺において玄奘三蔵法師靈骨の一部を台湾に分贈する分贈法要が営まれ、廿六日には台北善導寺に於いて授受の式を挙げた。

十二月 自三日
至四日 座主 梶下は、兵庫教区悟真院にて同寺開創九百五十年開基記念法要並びに天台大師千三百五十年御遠忌法要を御親修された。

十二月十二日 中山玄雄勸学の天台声明の保存録音が、文化財保護委

員会の需めによつて、日本放送協会京都放送局で行われた。

十二月十七日 滋賀県英霊供養塔開眼供養が、大津市膳所本丸公園に於いて、座主猥下御導師の下十口出仕して厳修された。

昭和三十一年^丙二月廿一日 上野一山神田尚順は上野輪王寺門跡に任命された。

三月十五日 ビルマ方面戦没者遺骨収集団に参加した吉田道稔は無事帰国した。

四月一日 本年は恰も開宗千百五十年に相当するので、今年から三十三年に至る三ヶ年に亘り総本山に於いて開宗記念法要が勤修される事に成った。就いては今般座主猥下は左記の教諭を発せられ、宗徒の奮起を要望された。

教諭

恭しく惟るに宗祖伝教大師四宗一源の法幢を樹てて天台円頓の宗を開き給いてより正に千百五十年の紀辰を迎ふ。

今や国運未だ旧に復せず世相仍黯黷国家益々多事多難の時に際会す。此に於てか宗徒たる者謹んで大師立教開宗の丕業に鑑み宜しく決意を新にし、以て祖訓を顕彰し鴻恩奉謝に丹誠を捧げざるべからず。庶幾くは宗徒此の機を逸せず門末檀信と俱に齊しく力を協せ、内は法華一乗の信仰を固うし、外は国威振張の佳運を扶け、弥々国家鎮護の宗威を宣揮せんことを。

昭和三十一年四月一日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

四月自十四日至十一日 本年度御修法大法は、延暦寺大講堂に於いて、座主猥下始め各門跡等参勤して、普賢延命法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月廿日 開宗千百五十年記念大法要が始まった。

四月廿九日 福島教区鏡石寺に於いて、開宗千百五十年記念大法要並びに戦死者供養塔開眼法要が、座主猥下御親修の下に厳修された。随

行は木下教学部長、三浦延曆寺幹事、菅田布教師であった。

五月一日 陸奥教区仙岳院に於いて、教区主催の開宗千百五十年大法要が、座主猊下御親修によって厳修された。随行は右に同じ。

五月三日 陸奥教区中尊寺に於いて、陸奥出羽押領使鎮守府藤原二代基衡公八百年遠忌大法要が、座主猊下御親修の下厳修された。随行は右に同じ。

五月五日 埼玉教区吉祥寺に於いては、梵鐘再鑄撞初式並諸堂宇營繕落慶法要が、座主猊下御親修にて執行され、盛況であった。随行は右に同じ。

同日 慈覚大師の御生母の墓碑が、栃木県下都賀郡小野寺村上岡の実相院(眞言宗)に在る事が、最近判明したので、之を記念して、栃木教区佐野部寺院では、この日同教区主催の実相院殿尼公追善法要並びに墓前祭を盛大に執行した。

五月十二日 三井寺第百六十二代長吏晋山式が午前十一時から金堂で

行われ、座主猥下は執行等を随行参列された。

五月廿五日 日本仏教徒会議が比叡山延暦寺に於いて、各宗派代表、各府県地区職域等の仏教団体代表、各大学生、仏教青年会、仏教婦人会等の団体代表総数約五百名参加して三日間に亘って開催された。

五月廿六日 日本仏教徒会議参加者は、延暦寺根本中堂に於いて、午前十一時から座主猥下調声によって厳修された各宗祖師報恩並びに世界平和祈願法要（声明例時之攸）に参列した。

六月四日 長講会が比叡山上浄土院に於いて例年の通り厳修された。

六月五日 日光一山僧正小暮慈全は宗務総長に任命された。

七月十五日 日本仏教学会比叡山大会が各大学代表者十八名の研究発表によって開かれた。

八月五日 福井市光照寺に於いて、大仏再建開眼並びに開宗壹千百五十年御遠忌法要が座主猥下御親修の下に行われた。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山禅定院住職藤支哲道は戸津説法を勤仕した。

九月十五日 比叡山西塔釈迦堂の立柱式が午前十一時から執行された。
自九月廿八日 伝法灌頂は、比叡山東塔北谷総持坊に於いて、穴太流鶏
至十月十三日 足院灌室当番で執行された。

十月七日 川越市喜多院に於いて、無量寿殿以下重要文化財六棟、其
の他十棟の解体修理又は新築修理等が完成したので、座主猊下御親修
の下に落慶法要が行われた。猶、十月中、座主猊下は埼玉教区喜多院
の他、群馬教区長寿院、陸奥教区等にも御親教をされた。

十月十一日 午前三時半頃大講堂出火を発見、山上事務所宿直員は直
ちに山下諸院へ連絡、山上総持坊灌室宿泊者と協力して現場に到着し
たが火災は堂内に満ちて手の施す術もなく、堂外の各消火栓を開いて
懸命の消火を続けた。午前四時十分頃より比叡山ケーブルは応急頻発
して一山住職、宗務庁員、出入方及び消防団等急遽登山駆け消火に
つとめたが火勢強く大講堂消失し、堂後の前唐院、堂西の食堂も延焼
消失、堂前の大鐘楼も延焼してわずか残骸を残すのみとなった。この
間、堂東下の根本中堂、堂西上の戒壇院にも飛火頻りであったが、懸

命の放水によってこれらの諸堂の延焼を漸やくにして喰い止めた。午前五時半頃一往鎮火したが焼落ちた後の余燼は残っているので放水は翌十二日夜まで続けられた。惜しくも焼失した仏像は次の通りである。

一、大講堂の部

大日如来像一軀、十一面観音像一軀、弥勒菩薩像一軀、梵天像一軀、帝釈天像一軀、四天王立像四軀、桓武天皇坐像一軀、伊井大老坐像一軀、釈迦如来坐像(銅造重文)一軀、文殊菩薩坐像一軀、弥勒菩薩坐像一軀、毘沙門天立像(木造重文)一軀、持国天立像(木造重文)一軀、阿弥陀如来坐像(木像重文)一軀、文殊菩薩坐像一軀、薬師如来立像一軀、地藏菩薩坐像一軀、地藏菩薩立像三軀、大黒天立像一軀、善光寺如来像一軀、妙見菩薩立像一軀、三面大黒天像一軀、山王権現七社像七軀、伝教大師坐像、智証大師坐像、法然上人坐像、親鸞聖人坐像、良忍上人坐像、道元禪師坐像、栄西禪師坐像、日蓮上人坐像、空也上人坐像、真盛上人坐像、一遍上人坐像、百枝公坐像、藤子坐像各一軀

三、前唐院の部

慈覚大師坐像一軀

十月十二日 未だ火災跡から火煙ののぼりつつある焼失大講堂の正面に仮壇を設け、理性院大僧正御導師の下一山各院住職全員出仕して、焼失仏像の為法要を執行した。

十月十六日 延暦寺真島全性僧正紹介の米人ロバート・カール・ウィラー氏の得度式が滋賀院に於いて、理性院大僧正御導師の下執行された。

十月廿九日 延暦寺恵光院住職大僧正叡南覚誠は延暦寺執行に任命された。

十一月六日 衆議員文部省関係文教委員(委員長佐藤氏)一行五名其他県教育委員等十五名は午前十時比叡山を訪れ、叡南執行他幹事の案内のもと大講堂火災跡を詳しく視察した。

昭和三十三年丁一月卅一日 比叡山をより広く多くの人に紹介する目的で、昨春から延暦寺と宗務庁共同で、カラー映画「比叡山」の作製に

かかり、その中の諸堂篇が完成した。尚、行事篇の作製が続けられ、五月には完成される予定である。

二月十一日 九州大興善寺住職神原玄祐は宗務総長に任命された。僧正勝野隆信は天台宗史編纂所々長に任命された。

二月廿二日 比叡山上大講堂跡に飯堂が建てられ、その上棟式が執行された。

三月十五日 延暦寺一山仏乘院住職三浦義薫は叡山学院々長に任命された。

三月廿六日 往昔近江比良山中で行われて来た比良八講が、今度比叡山横川飯室不動堂の輪番箱崎文応大行満等によって復活される事になった。この日午前八時半から、横川院内を主とする一山住侶と行者達は、浜大津から船に乗り、船上で琵琶湖上の安全祈願や塔婆流しをした後、志賀町湖岸に上陸、八所神社で比良八講、採灯大護摩供を奉修した。

四月自十四至十一日 本年度御修法は延暦寺根本中堂に於いて、座主猊下始

め、各門跡、地方代表、山内住職が参勤して、鎮將夜叉法を厳修し、玉体安穩宝祚無窮並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月八日 延暦寺では、今度月刊新聞「比叡山時報」を発行して、大衆教化の一助とし、又一山及び一宗諸寺の行事等の報道をする事に成った。

四月十七日 三月末から比叡山宿院で行われている第二回ビルマ派遣留学僧の研修会に、この日ビルマ郵政庁長官ウー・トン・ティン氏、最高裁判所判事ウー・オンキン氏他二名が来山した。

四月自廿一日至廿三日 岐阜県神戸町善学院に於いて開宗千百五十年慶讃法要が、座主猊下御親修の下教区寺院住職出仕して厳修された。又座主猊下親修の五重相伝が約百人の善男善女に授けられた。

五月三日 北茨城市浄蓮寺で一時半から、愛染明王堂落慶入仏法要が、座主猊下御親修の下、部内各寺院住職の出仕を得て、境内一杯の参詣人の随喜する中、盛大に行われた。次いで同寺本堂で、第二次世界大戦で散った英霊追善法要を猊下御導師の下に執行、又信徒に授戒を行

い、その後清水谷本山布教師の法話があった。

五月七日 比叡山にドライブウェイが設けられる事に成り、その起工式が、午前十時から根本中堂で叡南執行導師の下関係者等が参列して盛大に行われ、引続き現場で地鎮祭が行われた。主な参列者は、京阪電鉄村岡社長、間組社長、大阪陸運局長、六社代表、大津市長等であった。なお、この道路の完成は明年三月の予定である。

五月十二日 延暦寺檀信徒総代北河淑氏夫妻は親戚代表と共に、先代の納骨に来山し、阿弥陀堂での猊下御導師の法要に参詣した。

五月十九日 神奈川教区医王寺では、戦災で焼失した本堂を総工費七百万円で再建中であつたが、この程完成したのでこの日、本山から座主猊下を迎えてその落慶入仏供養の法要が盛大裡に行われた。猊下は、式後、孝道教団本部を訪問された。

五月廿一日 延暦寺大講堂の仮堂落慶入仏供養大法要は、午前九時から有縁の各方面名士、檀信徒等数百名の参列の中、座主猊下を大導師に仰ぎ一山の衆僧出仕して執り行われた。

六月四日 長講会は比叡山上浄土院に於いて例年の通り座主猥下御証義の下厳修された。

六月六日 関西、四国を御旅行中の高松宮殿下は午前十一時過煙雨の比叡山に登られ、中山座主猥下、叡南執行の挨拶を受けられ、根本中堂、大講堂仮堂に御参拝の上、書院で御中食を召され、午後一時半のケーブルで坂本へ下られ、日吉神社に参拝の後大津の宿舎にお帰りになった。

六月八日 第一回中央布教講習会が午後一時から比叡山宿院で開催された。講師は神戸大都留教授、真言宗寺河布教師、山口光円勸学、飛鳥井滋賀仏婦会副会長であった。

七月二日 延暦寺一山大僧正山田恵諦は延暦寺執行に任命された。

七月十二日 琵琶湖の与える恩恵に感謝し、そこに眠る故人の靈を慰め、且事故絶滅を祈念する湖神祭は、今年もこの日、中山天台座主猥下の御導師で一山の僧衆出仕して厳肅に執行された。上原大津市長、斉藤大津警察署長、船野滋賀県会議長の挨拶等もあり二百人程の善男

善女が随喜して盛大であった。

八月三日 去る七月廿五日西九州長崎県大村、諫早両市方面に局処的豪雨があり、空前の災害をもたらしたが、天台宗関係寺院の被害は軽微であった。関東を巡回中の神原宗務総長は諫早の災害地視察と慰問の為東京から急ぎ帰り九州に向った。

八月自廿一日至廿五日 日光輪王寺門跡菅原栄海は戸津説法を勤仕した。

八月廿五日 昨年不慮の災禍によって焼失した延暦寺大講堂は本年五月仮堂が完成し、本堂の復興が一宗あげての大事業として宗教界内外から注目されていたが、今回大堂復興局の他の役員（復興局は六月に総長、副総長を決定）が正式に決り座主猥下から各々任命され、焼失一週ンを待たずして愈々實際活動の態勢に入る事になった。

復興局役員

総長 神原宗務総長

副総長 山田延暦寺執行

事務局長 山田延暦寺執行兼任

企画部長 木下寂元

組織部長 駒田光巖

会計部長 梅山円了

総務部長 吉田道稔

九月二日 比叡山横川の堂宇に初めて電灯線が開通された。

九月七日 日光山輪王寺門跡菅原栄海は望擬講に補任された。

延暦寺一山禅定院住職藤支哲道は望擬講に補任された。

九月廿一日 名古屋の都築氏、延暦寺の葉上大行満等の発案による仏教詩人宮沢賢治の歌碑が根本中堂の前によりやく完成し、丁度二十五周忌の命日に当るこの日、その除幕式が、中山座主猥下を御導師に一山僧出仕の下、賢治の姪宮沢潤子さんを始め関係者約百名が参列して盛大に行われた。

十月一日 大講堂焼失以来殊の外御心痛の座主猥下には、現下の宗情に漸く御安堵されたが、更に宗運を興隆し信仰を恢弘する為に、焼失一週年を迎えるに当って特に御言葉を発せられた。

座主猊下の御言葉

二七一

総本山の大講堂が不慮の災禍に遇うて焼失してより茲に一年、始めて巡り来る痛恨限りなき十月十一日を迎えるに当り、敢えて衷情を披瀝して闔宗の諸師並びに檀信徒の各位に告ぐ。

災火の原因等その筋に於いて糺明せられつつあるも未だ結論に至らず、ただ早期にこれを発見し得ざりしは、その悔い、永劫に残り、慙愧に耐えず。本山一同総懺悔の誠を致して直ちに仮堂を営み、本尊を安んじて日夜に恩徳を謝し、復興を祈念す。嚴肅なる世の批判は当然なるも、天下の同情また翕然として集まる、列祖の遺徳にしてただ感泣あるのみ。

夫れ我が大講堂は、第二祖義真和尚の創草し給へる開明の道場にして、爾來列祖先徳の開示悟入し給へる所、いやしくも天台の流れを汲むの輩、必ずこの堂に入りて大導師の印可に預る。伝統相承は釈家の嚴規、仏法の大本、これを捨てこれを忘れて仏教在るなく、宗の名存せず、我が宗に於いて欠くべからざる根本道場なり。しかも

ただに相承の典儀を行うのみならず、講堂の名に於いてその用を發揮するを以って面目となす。若しこれを果さざるは宗祖の遺訓にそむき、本山の實質に違ひ、また宗学の研鑽に衰微せるを示すのみ。宗徒思いを茲に致し、傾日宗議會を開いて滿場一致これが恢復を決議し、復興の局を發し評議の会を設けて着々実行に進む、未曾有の大事業にして困難思いの他なるべきも、法師の一致和協と檀信徒各位の篤き信仰によつて必ず時代に相応したる講堂の再現あるを信じ、心から法師に委嘱し、各位に依頼す。宜しく諒解し努力せられんことを翼う。

昭和三十二年十月一日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

十月五日 東京教区目黒不動滝泉寺では、練行道衆二千五百名が参加して座主猊下御親修のもとに本尊開扉の大法要が執行された。一
十月九日 岡山教区津山大円寺では、諸堂宇の大修理が完成し、梵鐘再鑄開眼撞初を兼ねての大法要が座主猊下御親修の下に執行された。

十月十一日 大講堂焼失一週年を迎えた比叡山延暦寺では、この日早朝午前三時半から根本中堂を中心とする防火訓練が始められ、九時からは大講堂仮堂で再建祈願並焼失仏像供養法要が、天台座主代理即真滋賀院門跡の導師の下、一山、本庁の僧全員が托鉢の服装で出仕して嚴修され、懺悔と再建への決意をした。続いて宮島大津消防署長作の不動尊の開眼式があつて後、天台座主猊下を先頭に、「大講堂再建勸進」ののぼりをかかげて、宗務総長、延暦寺執行、一山住職全員と、宗務本庁、復興局、延暦寺関係婦人会、詠歌講、巡礼講、出入商人、高校生を交える総勢三百余人で、京都市、大津市内外に再建の為の大托鉢と街頭募金運動を繰り広げた。

因みに、この日十余万円と三石の米が喜捨された。

十月廿八日 比叡山延暦寺阿弥陀堂に於いて、東京教区品川常行寺住職修多羅亮澄師が願主となり、一立斉安藤広重の百回忌追善回向法要が嚴修された。

十月卅日 陸奥教区気仙沼観音寺に於いて教区主催開宗千五十年記

念法要が座主猥下御親修のもとに行われた。

十一月二日 比叡山無動寺谷法曼院跡に建立道場（本尊大日如来）が完成し、座主猥下を迎えてその道場開きが行われた。法曼流の灌室法曼院が滋賀院御殿内に移築された後長らくそのままに成っていたが、昨年明王堂輪番葉上照澄師等が發起人となってその再建を計画し、この程灌頂道場並びに止観道場として一般にも広く開放される事になった。

十一月三日 兵庫教区神戸市会下山善光寺に於いては、堂宇庫裡が新築され、本堂落慶入仏供の大法要が座主猥下御親修の下に行われた。

十一月五日 前首相石橋湛山夫妻は森滋賀県知事の案内で、秋雨模様
の比叡山に登山、諸堂を参拝後石山に向った。

十一月八日 岡山の山陽新聞社社会事業団が行なう「歳末厚生展」に参加方、中山座主猥下にも要望して来たので、猥下はその主旨に賛同され、同展に御染筆を数葉出品される事になった。

同日 日光山輪王寺前門跡大僧正菅原英信が遷化した。本葬儀は今月

十二日執行される。

十一月九日 京都粟田口の青蓮院門跡ではこの日、同門跡宸殿に於いて、故久邇幌子さんの一週忌法要を、各宗本山管長等参列の中、中山天台座主猊下御親修の下、延暦寺、真如堂等京都市内各寺住職出仕して厳かに行われた。

十一月廿三日 南総教区主催の円頓授戒会が千葉県長生郡長南町妙覚寺(住職藍長覚)に於いて、天台座主猊下御親修の下厳修された。参詣者一万余名の中、千数百名に授戒、五千名に血脈授与があった。

十二月八日 比叡山の大講堂の再建に当り、御本尊の大日如来像は、天台座主猊下の御発願によって、猊下を始め延暦寺一山寺院の住職全員が悼資を献じて奉納されることになった。又前の御堂と同様に、新大講堂に各宗祖師像が奉安される事に決り、有縁の人々の協力を得て各宗本山に祖師像の奉納を懇請していたが、この程各宗派当局から各々快諾が得られた。因みに新大講堂再建の日に比叡山を祖山とする各宗祖師の尊像奉安を勧請する為座主猊下より各宗派本山に出された請

願文は次の通りである。

請願文

稽首和南比叡山玄秀謹んで申す。我が山大講堂昨秋十月十一日未明不慮の災禍に罹り、匆忙の裡一瞬にして烏有に帰す。不幸発見遅く時既に劫火全堂を包み、加うるに周囲の戸扉堅固にして容易に入るを許さず、御本尊を始め奉安の仏像等、一軀をも遷座し得ず、皆焼失の厄に遇い給う。予てこの堂に安置し、祭祀怠らざりし我が山より出で給う各宗派祖師の御像も亦、俱に本地に還り給う。痛恨極りなく、悲嘆限りなし。仏罰嚴にして恐懼の至りに堪えず。速かに堂宇を再建して諸仏諸尊等を迎えて安置し、仏法興隆、国家安穩を祈念せんことを期す。

我れ等既にして発願する所あり、即ち宗祖伝教大師開創以来、恒に仏教を興隆して国家に貢献し国民の幸福を増進せんがために我が山を道場として、国宝等の育成に努むるべきを規定し給い、久しきに亘り籠山修行の実行あり、この故に歴世偉僧輩出して時代適應の教

法を流布し、濟世利民の仏法を弘宣す。各宗派祖師の時に応じて新たな教線を布き給う、一にこの大願より発る。しかも各宗祖師の開示悟入し給う道場が大講堂なるを想い、我等自ら等身の祖師尊像を彫みて壇上に安置し、詣ずる者をして帰依を発さしめ、恩徳を謝せしむ。参拝の各教徒の喜び限りなかりしに、この不幸により遂に願望を中絶す。悲泣痛嘆ただ祖師に対しては罪を謝し、宗派の諸師に対しては赦しを希うのみ。然れども我れ等既に大講堂の再建を願し、寺檀一致宗の総力を挙げて之を達せんことを祈誓す。仏天の冥応と十方有縁の援助を得て成就の暁には、再び各宗派祖師の尊像を旧の如く大講堂の壇上に安置し、有縁と共に仏法興隆の冥護を仰がれんことを念ず。茲に於いて則ち乞う、我等の懇志を諒解し、求願を援助するの意を以って、貴本山または貴宗派より祖師の等身の御像を新たに建立する大講堂に納め給え。安置の後貴宗派に於いて、期を定めて報恩の法要を営み給う志あれば、則ち求めに応ずべし。また祖師の御行蹟を慕い、貴宗派の教師檀信徒等が、新たな大講

堂に於いてその宗派の宗規に準じて修行せんと欲する者あらば、山務に差支えざるを見て即ち喜びを頌たん。宗祖伝教大師の本願に依憑し、謹んで請願す、庶くは懇望を容れて求願を満足せしめ給え。

合掌敬て白す

比叡山延暦寺住職

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

十二月十一日 去る九月の第一回大堂復興局評議員会、延暦寺一山会議で決定をみた大講堂の鐘台の再建は、約七百万円の総工費で着工される事に成り、その起工式が午前十時から、中山天台座主の導師で、宗務庁役職員、延暦寺当局と一山住職全員が出仕して行われた。

昭和三十三年^{戊戌}一月十四日 小雨煙る比叡山西塔に於いて、昭和三十一年四月から解体修理中の釈迦堂の上棟式が、座主猊下の御導師の下、事務所役員、三院内役者出仕して厳粛に行われた。高さ二十尺有余の軒に設けられた祭壇で、先づ大導師開音によって神力品が誦誦され、その後粟田万喜三人夫頭が木槌節を朗々と唄い、続く「槌打ち」は粟

田頭の「万才楽」の掛声に三人のとび職の「応答」の声と共に三三五拍子の古式に倣って力強く打たれ、目出度く上棟式を終了した。

一月廿六日 午前九時から滋賀院門跡に於いて中山座主猥下御導師の下に開宗記念法要を行った後、山田延暦寺執行を先頭に約百人が四班に分れて、坂本一円を寒風の中、大講堂再建の浄財を求めて大托鉢行を展開した。

三月三日 比叡山観光道路工事の完成とともに業務を開始する新会社「比叡山自動車道路株式会社」の発起人会が午後京都ホテルで行われ、延暦寺側からは山田執行が出席した。この発起人会には、京都、滋賀両知事、京都、大津両市長、京阪電鉄社長等が集まり、定款、事業計画、役員を決めた。

三月八日 滋賀県甲賀郡飯道山行者講では、去る二月十二日から十日間、総勢二百人程で大講堂再建勸募托鉢を行ない、その浄財献納式が、午前十時から滋賀院で、座主猥下御臨席の下行者講員四十名が参加して行われた。

四月三日 天台学の權威、延暦寺恵光院住職望擬講大僧正福吉円鈔は午前五時遷化した。

四月^{自十四}_{至十一}日 本年度恒例御修法は総本山延暦寺根本中堂に於いて、

座主猊下始め、各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、熾盛光法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十八日 開宗千百五十年大法要に間に合わず様突貫工事を続けていた、比叡山ドライブウェイ工事はようやく十七日の徹夜作業を最後に完成した。この日折からの雨の中、根本中堂、田の谷峠、四明岳頂上の三カ所で、京滋両県知事を始めとする多数の来賓を迎えて盛大に完成式が行われ、十九日から「東洋一の景観と聖地比叡山へ」のキャッチフレーズで華々しく業務を始める事に成った。この日午前九時から根本中堂に於いて、工事関係者（京阪電鉄、自動車会社、間組）の参列する中、中山座主猊下の大導師の下に延暦寺一山僧出仕して、厳かに道路の安全を祈り、開通を記念する金色のはさみが御加持され、渡辺法務幹事がそれを奉持して車を連ねてドライブウェイの起点の田の谷峠へ

向った。田の谷峠では、村岡京阪社長が山田延暦寺執行から渡されたはさみで五色のテープを切つて完成式が終り続いて四明岳駐車場で、午前十一時から完成祝賀式が行われた。

四月自廿四至廿四日　去る三十一年四月から始まった天台宗開宗千百五十年

記念大法会は、この五日間、比叡山上で繰り広げられ、絢爛の大法会で三ヶ年に亘る幕を閉じた。この間比叡山には約五万人の団参客があり、全国各地では僧俗一体となって宗祖大師の徳をしのび、日本歴史に偉大な業績を残した天台の教の認識を深めた。

四月廿日　開宗一千五十年記念大法会開闢

開宗記念薬師曼荼羅供　於根本中堂　大導師天台座主猊下

檀信徒各家精靈回向法要　於阿弥陀堂　大導師毘沙門堂門跡

廿一日　各宗祖師報恩会献茶法要　於根本中堂　大導師青蓮院門跡

世界平和祈願法要採灯大護摩供　於中堂前広場　大導師修験道管領

永代祠堂総回向法要　於阿弥陀堂　大導師日光輪王寺門跡

廿二日 桓武天皇報恩法要 於根本中堂 大導師天台座主猊下

全國詠歌奉納大会奉詠之儀 於根本中堂 大導師三千院門跡

叡山講福聚教會物故者追悼法要 於阿弥陀堂 大導師妙法院門跡

廿三日 宗祖大師報恩會御影供 於根本中堂 大導師滋賀院門跡

万国忠靈総回向 於阿弥陀堂 大導師上野輪王寺門跡

廿四日(結願) 大講堂復興祈願法要藥師供 於根本中堂 大導師天台座

主猊下

百萬靈総回向法要 於阿弥陀堂 大導師曼殊院門跡

四月廿四日 各宗祖師像を再び叡山に迎え、大乘仏教の一層の興隆を願う座主猊下の起請に応え、この日、日蓮宗増田管長を始め全部長と信徒約二千人が、日蓮上人御像を奉持して来山、増田管長を先導に根本中堂に到着、直ちに奉納式が行われ、天台座主から拝受の辞が述べられ、この後、式を大講堂仮堂に移して、天台座主御導師の下奉安の法要が営まれた。

四月廿八日 天津市下阪本聖衆来迎寺住職大僧正山中忍海は毘沙門堂

門跡に任命された。

五月二日 陸奥教区岩手県中尊寺の東北大本山昇格伝達式法要が本庁から役員を迎えて厳肅に行われた。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて長講会が例年の通り座主猥下御証義の下厳修された。

六月十一日 近江八幡市興隆寺(住職橋野順莖)に於いて午後二時から、開宗千百五十年慶讃法華三昧法要が、天台座主猥下御導師の下蒲北部内住職二十名が出仕して厳肅に行われた。この盛儀には宗務庁、延暦寺各代表、近江八幡市長等の参列があり、清水谷教学部長の特別布教が行われた。

六月^自至^廿廿^三日 第二回中央布教講習会が京都青蓮院門跡で、全国から推薦された七十名の布教師を集めて盛大に行われた。因みに、開講式には宗務総長、教学部長、山田延暦寺執行等が参列した。

六月廿七日 古建築の権威である京大教授村田治郎博士が小牧実繁滋賀大教授と共に登山、大講堂跡を大堂復興局役員の案内で視察した。

同博士は、大講堂復興について近く設置される建築顧問団の一員として、特に文部省の推薦で復興局が依頼した人であるが、今後の復興再建計画のため来山したのである。

七月十五日 秩父宮妃殿下は、上原大津市長等と共にドライブウェイを車で比叡山に登られ、出迎えの山田執行の案内で、根本中堂、大講堂仮堂に参拝され、書院で御中食を召され午後一時半再び車で下山された。

七月十六日 自動車道の開通に伴ない参拝者の激増した比叡山では、その靈域を護る為色々考慮されていたが、この日午前十時から、大津市公民館に、県、市、県警、大津署、大津消防署、延暦寺の六者が集まり、靈域浄化の為の六者協議会を開いて、今後制限区域を設けて、聖地比叡山を関係法律等を適用して守る事に成った。

七月廿二日 比叡山中学校校舎が新築される事になり、その地鎮祭が執行された。

八月十一日 比叡山大講堂鐘台復興工事中、鐘を釣り下げる鉄鉤に、

年号と作者の銘があるのが発見されたが、天台座主記に記されているのと相違があり、問題となった。因みに、渋谷大僧正編の座主記に、第二百十二世入道二品尊真親王の記事の中に「安永二年四月八日朝大講堂の鐘落ち、播州の冶工をして鈎鉄を鍛えしむ」と記されているのに対し、発見された鈎鉄の銘には「若州小浜住西川市助富明」と作者の名を刻み、片面には「癸安永二年巳十月日」とあった。

八月自廿一日至廿五日延暦寺一山延命院住職獅子王円信は戸津説法を勤仕した。九月四日参議院文教委員会の竹中委員長を始め全委員、文化財保護委員会の服部建造物課長ら一行十余名は、午前十時、京都から自動車で来山、服部課長、山田執行の案内で根本中堂に参拝した後、ドライブウェイ開通後の比叡山一帯を視察、昼前下山した。

九月廿八日群馬教区は、宗祖大師遺跡の鬼石町浄法寺に於いて立教開宗千百五十年記念法会を、教区内檀信徒総代七百余名参拝のもとで行った。

十月十日大講堂鐘楼落慶法要が午前十時半から座主猊下導師で行わ

れた。主な参列者は天台真盛宗木村管長、天台寺門宗福家長吏、曹洞宗高階管長、臨濟宗建仁寺派竹田管長、同心上執事長、融通念仏宗西洞院管長、智恩院千々和執事長、臨濟宗南禪寺派教学部長などであった。

落慶法要次第

先 衆僧入堂

次 大導師御入堂

次 宗歌

次 大導師登壇

次 懺悔歌

次 唄匿

次 散華

次 大導師表白

次 四弘誓願

次 読経 神力品

次 報恩歌

次 後唄

次 鳴鐘の儀
大導師二回
他は一

次 般若心經

次 真言
大日如来
諸天総咒

次 回向

次 大堂復興局総長挨拶

次 工事報告

次 来賓祝辞

次 工事功労者表彰

次 終典歌

次 大導師退座

次 衆僧退座

同日 大野善久氏寄附による大講堂復興伝道車の献納式が行われた。

十月十一日 比叡山の大講堂が焼失して二周年に当るこの日を迎えて、

本年も天台座主を先頭に、一山住職、宗務庁、行者講、婦人会、出入商人、叡山高校生等が数組に分れて、京都、滋賀の各地区に向い、大講堂再建の大托鉢を行った。

十月十五日 群馬教区中道院住職三沢長忍は本日付で、地方社会の厚生福祉に尽力した功績により藍綬褒章を受賞した。

十月十七日 東京浅草寺本堂落慶々讚大法要が行われた。

十月廿二日 長野善光寺で世界各国戦病没者慰霊大法要があり、元東久邇宮総裁等の参列の中、大勸進東伏見大導師の下金剛界曼荼羅法要が厳修された。

十一月一日 平泉中尊寺(在職園実円)では、寺格昇格(東北大本山となる)の式典を兼ねて、比叡山根本中堂の不滅の法灯相承の大法要が行われた。又同日中尊寺の防災工事の落成式も行われた。この大法会は、神原宗務総長、山田延暦寺執行等が参列して、厳肅盛大裡に終始した。

十一月三日 東欧チェコスロバキヤ、プラーグ大学東洋研究所長ウラストー、ヒルスカ女史が在日チェコ大使館員イヤン・ヴァインケルフェ

ルフェル氏の案内で、比叡山に日本文化の根源を尋ねて、諸堂を参詣の後、山下滋賀院で中山座主猊下と面談、五時奈良ホテルへ帰った。

十一月九日 京都青蓮院門跡に於いて、久邇家故妃殿下三週忌法要が、東伏見門主大導師の下執行され、山田延暦寺執行等が参列した。

十一月十六日 大津市坂本日吉馬場の律院に於いて、新鑄の鐘の撞初式が、午前十一時から、中山座主猊下の導師で行われた。

十一月廿四日 延暦寺仲座職法眼山中祐源は本日他界した。

十一月廿五日 去る昭和十二年十月廿九日長野県伊那郡阿智村智里園原に、当地の薬師堂並びに比叡山開創千百五十年記念法要事務局によって、広極院遺跡碑が建立されたが、同十三年四月、前述の比叡山開創千百五十年記念事務局では、更に岐阜県側に広濟院記念碑の建立を計画して、広極院趾碑と同大の碑石も出来上ったが、諸事情の為惜しくも完成を見なかった。併し、今般信越教区が三十三年四月に行う開宗千百五十年記念大法要事業として広濟院碑の建立を議決し、この日遂に岐阜県中津川市御坂霧ヶ原に広濟院遺跡顕彰碑が竣工し、その除

幕式が小春日和の中、青蓮院門跡東伏見御導師の下、宗務総長、延暦寺執行、中津川市長等が参列して盛大に行われた。

十一月廿七日、皇太子と正田美智子さんの御婚約内定発表のこの日、延暦寺は根本中堂に於いて、薬師護摩供を奉修して御婚約の魔事のないことを祈り奉った。

十二月八日、比叡山高校校舎増築第一期工事の竣工式は折からの雨をうけて、天台座主猊下を始め上原大津市長等来賓多数を迎え盛大に行された。

十二月廿日、延暦寺一山明德院住職権大僧正中山玄雄は延暦寺執行に任命された。

昭和三十四年_{己亥}三月十八日、滋賀院に於いて第一回教学研究会が、延暦寺学問所、同徒弟学問所、及び叡山学院の合同にて開催された。

自三月卅一日
至四月十五日、名古屋の覚王山日泰寺に於いて、本尊釈迦如来の大開張が執行されたが、開帳大法要には毎日各宗管長、門跡が大導師を勤

め、四月七日には青蓮院門跡東伏見慈洽、十二日には滋賀院門跡大僧正即真周瀧、十三日には妙法院門跡三崎良泉、等が各々大導師を勤めた。

四月一日 去る三月廿七日から東京で始まった釈尊二千五百年祝典世界仏教徒大会は会場を四月一日から関西に移し、その第一日の祝典行事が比叡山で行われ、印度等十二カ国代表と日本代表等総勢百六十人が国際色豊かに不滅の法灯ともる根本中堂に詣り、即真滋賀院門跡の導師の下一山総出仕して行われた国禱会に参拝した後、書院で休憩して、十時半一般の参詣者に見送られて下山した。

四月自十四日至十一日 本年度恒例御修法は総本山延暦寺根本中堂に於いて、座主猊下を始め各門跡、地方選抜者、山内住職等出仕して、七仏薬師法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十日 皇太子殿下と美智子さんの御結婚に際して、延暦寺では一度御修法中であるため、この御修法を奉祝の御修法として、特に、十

日、御二人の御安泰祝禱法要が特修された。又全国三千の末寺に於いても、既に宗務当局から達示された通り、各々奉祝法要と記念事業が実施された。この御成婚に対して、中山天台座主猊下は左記の和歌を宮内庁を通じて献詠された。

皇太子殿下御結婚献歌

中山玄秀

皇太子(ヒノミコ)祈る修法の堂を出で来れば石欄竹に春の風呀ゆ

この佳き日皇太子(ヒノミコ)禱る比叡の山風竹台の葉をかがやかす

竹苑春風

皇太子(ヒノミコ)の佳き日寿ぐ御修法に比叡の中堂竹翠りなり

千歳経(ちとせ)る石欄干の若竹をそよがせわたる比叡の春風

五月自一日至五日比叡山無動寺谷建立道場で天台座主猊下の証誠による結

縁灌頂が修行された。無動寺谷住職教師全員が参勤し、約百人の善男善女が法縁にうるおった。

五月八日 比叡山内最古を誇る西塔転法輪堂（釈迦堂）の四年に及ぶ年月と五千三百万円の総工費をもって解体修理工事が完成したので、この日午前十一時から各方面の名士を招き、中山座主猊下を大導師として一山総出仕の下に、盛大な落慶御本尊釈迦如来遷座法要が厳修された。

法要次第

先 衆 僧 入 堂

次 大導師御入堂

次 大導師登壇

次 唄 匿 此間大導師開眼作法

次 散 華 上段

次 大導師表白

次 読 經 神力品一卷

次 真 言

次 後 唄

次 宗務総長挨拶

次 工事報告

次 来賓祝辞

次 工事功勞者表彰

次 大導師退堂

次 衆僧退堂

因みにこの修理工事に使った材料の内、木材は一、三九〇石（うち檜材八九六石）、銅板五、六〇〇枚（七・七四トン）、従事した職人は大工延べ一一、七四一人、銅板ふき工延べ一、〇七五人、石工とび人夫その他延べ一六、四〇八人で、工事従事者は総計延べ三〇、二二四人の多きに上った。

五月十日 天台宗教学の最高機関である勸学集会在坂本滋賀院で開かれ、新院長に福井康順博士を、事務局長に赤松延曆寺副執行を選出し、本年の教学活動について協議を行った。

同日 五月八日から十八日迄滋賀会館を中心議場として開かれたMR

Aアジャ大会に、延暦寺から乘実院真島全性住職が客員として出席し、この日午後四時から「伝教大師の精神とMRAの心」と題して話した。五月十四日 去る五月八日から大津市滋賀会館大ホールで開かれたMRAアジャ会議に出席したタイ国仏教会長老フラ・ピマラドハルマ大僧正は、タイ国仏教大学教授B・C・ケマシイ氏を通訳に随え、午前谷口滋賀県知事の案内で比叡山を訪れ、中山延暦寺執行、葉上明王堂輪番等と懇談、根本中堂に参拝後下山した。

五月廿一日 讚仏堂に於いて午後二時零分から翌廿二日午前五時廿五分迄の間、別請広学堅義が厳修された。

業 地上空仮 副 権乗下種

探 題 滋賀院門跡周湛大僧正

堅 者 竹林院住職権大僧正 池 田 長 田

一 之 問 法曼院〃 大僧正 叡 南 覚 誠

二 之 問 松禅院〃 大僧正 山 田 恵 諦

三 之 問 禅定院〃 大僧正 藤 支 哲 道

五月廿二日 已講大僧正叡南覺誠は探題に補任された。擬講権大僧正池田長田は已講に補任された。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて長講会が例年の通り座主猥下御証義の下厳修された。

六月十二日 来迎寺住職山中忍海は宗務総長に任命された。

七月一日 天台宗寺院共済組合が発足した。

七月廿九日 比叡山上一本杉の地にて、国際ホテルの竣工式が午前十時半から挙行され、中山延暦寺執行及び、幹事が出仕した。

八月自廿一日至廿五日 川越市喜多院住職塩入亮忠は戸津説法を勤仕した。

九月自三日至 比叡山中興の祖、第十八世天台座主元三大師（慈恵大師）

の九百七十五年遠忌大法要は、比叡山横川四季講堂を中心に天台座主猥下を始め一山の僧徒、及び宗内の住侶多数参集して、全国から登山して来た大勢の信者の歡喜法悦の中、盛大厳肅に執行された。

先ず第一日目の九月一日は、午前中横川灌室で結縁灌頂が行われ、午後は叡南法曼院大僧正導師による法華三昧大法要が修された。

翌二日の午前中は、有縁の人々の菩提をとむらう回向法要が行われ、続いて午後一時から大師報恩の御影供法要が探題大僧正即真滋賀院門跡御導師で、京都、滋賀の信者代表による献華、献香、献菓を得て、巖そかに修された。最後の第三日は、午前中の回向法要の後、午後一時から、中山天台座主猊下を大導師として如意輪曼荼羅供法要が古式ゆかしく行われ、莊嚴な遠忌法要の幕を閉じた。因みに、記念事業の一つとして、山田恵諦大僧正著の伝記「元三大師」が完成した。

九月十八日 望擬講菅原栄海は擬講に補任された。

九月廿五日 川越市喜多院住職塩入亮忠及び延暦寺一山延命院住職大僧正獅子王円信は夫々望擬講に補任された。

九月廿六日 伊勢湾台風が襲い、殊に東海、三重の両教区の惨禍甚だしく、死者行方不明数千名、家屋の全半壊等無数の被害は目を覆う有様であった。本庁では直ちに慰問使を派遣し、被害各地を見舞った。

九月廿九日 史上最大と云われる伊勢湾台風により、東海、三重両教区は大惨状を呈したが、延暦寺では見舞と状況視察を兼ねて、赤松副

執行、生田企画幹事を現地に派遣して、両師の報告に基いて直ちに実質的な災害地救援活動に入った。

九月自廿九日至卅日 本山戒坦院に於いて大乘円頓授戒会が厳肅裡に行われた。

伝戒大和尚 天台座主大僧正

羯磨説浄兼唄 妙行院権大僧正 梅山円了

教授師 禅定院大僧正 藤支哲道

十月自一日至五日 法華大会広学豎義が総本山延暦寺根本中堂に於いて厳修された。

臨監 勅使 旧上堂華族 清岡長吉

探題 延暦寺 大僧正 玄秀

探題 正覚院 大僧正 周湛

探題 恵光院 大僧正 覚誠

已講 竹林院 権大僧正 長田

擬講 光日輪王寺門跡大僧正 栄海